

会

報

| 2021 No.57



# 会 告

定款第14条2項1号に基づき、下記の定時総会を開催いたします。

## 記

### 第10回（令和3年度）

#### 公益社団法人 福島県診療放射線技師会定時総会

返信の締切期限：令和3年5月27日(木) 17時必着

総 会 日 時：令和3年5月29日(土)

新型コロナウイルス感染拡大による集会等の自粛要請を考慮し、異例ではありますが紙面上での定時総会の開催とします。会報に同封されますCDに総会議案書が入っておりますので、提案議題等をお読みご確認下さい。

また、書面表決の委任状を同封致しますので氏名・押印と、総会での各議案について「賛成・反対・保留」の部分に○を記載する事を必ずお願いいたします。

定時総会へのご意見等がありましたら、各協議会や理事までお知らせください。直接、県HPへメールしていただいても構いません。なお、一般公開講演や各表彰も中止といたします。会員皆様のご理解を宜しくお願いいたします。

結果については、各理事や県HPや福放技ニュースにてお知らせいたします。

# 告 示

公益社団法人福島県診療放射線技師会定款第23条及び役員選出規程に基づき、令和3年度～令和4年度役員の内候補受付及び選挙を下記により行う。

## 記

### 1. 役員の内数

理事：14名以上17名以内（会長・副会長候補者3名を含む）

監事：2名（内1名は会員以外）

### 2. 立候補、推薦候補届出受付開始日及び締切日

令和3年4月1日より5月3日正午まで

### 3. 届出の方法

立候補を選挙管理委員会に提出する。

### 4. 届出先

〒960-8157 福島県福島市蓬萊町7丁目13-5

福島県診療放射線技師会

選挙管理委員会

### 5. 投票日

令和3年5月29日 第10回（令和3年度）定時総会

### 6. 投票方法

郵送での紙面採決とし、定時総会当日に選挙管理委員が開票し集計する

開票結果は、議長へ選挙管理委員長が報告する

以上告示します。

令和3年3月1日

公益社団法人福島県診療放射線技師会選挙管理委員会

選挙管理委員長 田代雅実

以上

# 目 次

## 会 告 告 示 目 次

巻頭言 .....	新里 昌一
-----------	-------

## 表 彰

### 令和2年度受賞者名簿

令和2年春の叙勲を受章して .....	伊藤 陸郎 .....	3
伊藤陸郎氏 略歴 .....		4
瑞宝双光章 叙勲おめでとうございます .....	新里 昌一 .....	5
令和2年春の叙勲を受章して .....	佐藤 政春 .....	6
佐藤政春氏 略歴 .....		7
瑞宝双光章 叙勲おめでとうございます .....	新里 昌一 .....	8
「永年勤続50年表彰」受賞にあたって .....	片倉 俊彦 .....	9
永年勤続30年表彰を受けて .....	阿部 郁明 .....	10
永年勤続30年表彰を受けて .....	久保 均 .....	11
永年勤続30年表彰を受けて .....	清野 真也 .....	12
永年勤続30年表彰を受けて .....	折笠 秀樹 .....	13
永年勤続30年表彰を受けて .....	渡辺 進 .....	14
永年勤続30年表彰を受けて .....	服部 正人 .....	15
永年勤続30年表彰を受けて .....	緑川 喜雄 .....	16
永年勤続20年表彰を受けて .....	三瓶 孝 .....	17
永年勤続20年表彰を受けて .....	松井 大樹 .....	18
永年勤続20年表彰を受けて .....	長谷川和己 .....	19
学術奨励賞を受賞して .....	橋谷田理香 .....	20
学術奨励賞を受賞して .....	桑村 啓太 .....	21
学術奨励賞を受賞して .....	秋山 俊一 .....	22
学術奨励賞を受賞して .....	真船 浩一 .....	23

## 委員会活動報告

精度管理委員会 .....	大和田重義 .....	24
調査委員会 .....	佐藤 佳晴 .....	25
学術委員会 .....	鈴木 雅博 .....	26
広報編集委員会 .....	鍵谷 勝 .....	27
ネットワーク委員会 .....	菅野 和之 .....	28
放射線管理士部会 .....	佐久間守雄 .....	29
災害対策委員会 .....	菅野 修一 .....	30

## 分科会・研究会報告

消化器画像研究会	遠藤 潤	31
乳腺画像分科会	本田 清子	32
画像技術分科会 デジタル画像研究会	石森 光一	33
画像技術分科会 画像技術研究会	村上 克彦	34
放射線治療分科会	加藤 貴弘	35
MRI分科会	新里 昌一	36
CT分科会	村上 克彦	37

## 各地区協議会報告

会津地区協議会	鈴木 雅博	38
県南地区協議会	鍵谷 勝	39
県北地区協議会	池田 正光	40
浜通り地区協議会	花井 辰夫	41

## 施設紹介

当院における令和元年東日本台風被害と その後の復旧対応について	公益財団法人 星総合病院 続橋 順市	42
------------------------------------	--------------------	----

## 本部報告

令和2年度 第9回総会議事録	47
令和2年度 第1回理事会議事録	48
令和2年度 第2回理事会議事録	50
令和2年度 第3回理事会議事録	54
令和2年度 第4回理事会議事録	57
令和2年度 第5回理事会議事録	60
新事務所のご紹介	63
令和2年度 会務報告	65
令和2年度 役員名簿	67
令和2年度 委員会名簿	67
令和2年度 新入会・再入会会員名簿	70
令和2年度 名誉会員名簿	71
令和2年度 会員異動名簿	72
新人・新入会員紹介	74
賛助会員名簿	75

## 広 告

## 編集後記

# 巻 頭 言



福島県診療放射線技師会 会長 新 里 昌 一

## 【書いたり話したり】

2017年にTVから流れるCMで、浦和レッズ槇野選手が「毎日が挫折ですよ」と言っている言葉が耳に残りました。サッカー日本代表や海外移籍も経験した有名選手です。体操の内村航平さんは、「勝ち続ける事は地獄です」と言っています。

私も県技師会の会長として、毎日挫折を感じます。ただ、自分が苦しい時は成長する時だとも考えています。それでも還暦過ぎた爺さんには、もう成長はイイかなとも思うこともしばしばあります。そんな時に勇気づけてくれるのが、今は孫の笑顔と、サッカー、ワイン、ギターだと思っています。

10年前、県北のM井さんに「新里さんは巻頭言とか良く書けますね」と質問された事がありました。最初に県MRI技術研究会で書いた時は、本当に産みの苦しみでした。歴代の会長さん達は凄いなーと思いました。

ただ本来、本を読むのが好きで乱読していました。また普段から頭に思いついた文章を数行とか書いて貯めたりしています。幾つか貯まって見直し色々と組み合わせたり、そこから延ばしてみたりすると一応文章になってきます。それを幾つも保存して醸造のため寝かしておきます。今も完成版4つ、未完成版が3～4あります。思いついて一気に書いたのは、父を想って書いた戦争反対の文とニューノマルの文だけです。多分、日の目を見ない文章もあります。

慣れてくると頭に想った事が文章として流れ出て来て、それほど難しい作業ではなくなる時も希にあります。内容が良いか悪いかは別の話ですが、「面白く拝見しています」と会員に言われると素直に嬉しいです。巻頭言や会長オンレコは、広報編集委員の方にいつもチェックしていただき感謝しています。

人前で話す事や壇上での挨拶も同じです。昔は人前では、恥ずかしさで頭が真っ白になり何も話せない苦い経験が多々ありました。これも経験で、大勢の前でもカボチャ畑の前だと思えるようになりました。以前に書いた「スタンフォードのストレスを力にする教科書」には、話し方の記載もありました。緊張しないようにと落ち着いて話すと、間違えないかも知れないがネガティブで聞く人に響かないようです。やあ、みんな俺の話聞いて！と話したくて仕方がないとポジティブに考えて話すと伝わるそうです。その後は、実践していますが思いは伝わっているのでしょうか？

緊張するのは、失敗したらどうしようとの不安が原因です。万全の準備を行えば緊張も和らぎますが、時間もなく突然の時もありますけどね。

学生時代の私は、書いたり話したりして自分の考えを表現する事がとても苦手でした。ではどう克服したのか？学会発表を続けてみました。実験等を行い抄録書いて発表する。苦手な事から逃げないで、正面からぶつかる事で道が開けたように思います。若い頃は上手く行かず失敗しても大丈夫です。でも年取ってからカッコ悪い姿は見せたくないなので、一応は堂々としたいものです。「鉄は熱いうちに打て！」です。福島医大新学部の先生方は、発表の相談に強力していただけます。どう発表したら良いか、どう統計を使ったらよいかとか、色々と相談してみてください。

そして、ぜひTCRT2021（令和3年10月30-31日）で発表してみてください。お待ちしております。

## 令和2年度受賞者名簿

## ●叙勲 瑞宝双光章（令和2年度）

伊藤 陸郎 福島県診療放射線技師会 顧問 佐藤 政春 三春町立三春病院

## ●公益社団法人日本診療放射線技師会 永年勤続（50年）

《県北地区》

片倉 俊彦 B. B. M. I. L.

## ●公益社団法人日本診療放射線技師会 永年勤続（30年）

《県北地区》

阿部 郁明 福島県立医科大学附属病院 久保 均 福島県立医科大学新医療系学部設置準備室

清野 真也 福島県立医科大学附属病院 渡辺 進 医療生協 わたり病院

服部 正人 【JCHO】二本松病院

《県南地区》

緑川 喜雄 寿泉堂総合病院

《浜通地区》

折笠 秀樹 いわき市医療センター

## ●公益社団法人福島県診療放射線技師会 永年勤続（20年）

《県北地区》

松井 大樹 北福島医療センター

《県南地区》

三瓶 孝 総合南東北病院

《会津地区》

長谷川和己 福島県立医科大学附属会津医療センター

## ●令和元年度学術奨励賞

- ・「高圧注入対応型CVポートの造影CT検査における耐圧性能の基礎的検討」

太田西ノ内病院 橋谷田理香

- ・「高ガラス線量計を用いたkV-CBCTの線量測定の初期経験」

いわき市医療センター 桑村 啓太

- ・「当院でのドパミントランスポーターシンチグラフィにおける異なる線条体解析ソフトの比較」

総合南東北病院 秋山 俊一

- ・「原子力災害時に診療放射線技師が担った多様な役割についての意識調査 最終報告」

公立岩瀬病院 真船 浩一

# 令和2年春の叙勲を受章して

福島県診療放射線技師会 顧問

伊藤 陸郎

## 叙勲をもたらした二人

叙勲の内示があった時、我ながら果報者という想いがあった。

戦時なら陸軍軍人にと付けた名前が、戦後になったから商船の船長になれという親の希望あり、放射線技師という職業は高校卒業まで意識の片隅にもない中で、予備校代わりに入学した東北大学医学部付属診療エックス線技師学校。同期の及川君の推薦もあって日本放射線技師会の理事になり、エックス線発見100周年記念学術大会で、見目麗しい紀子様を間近にガードしたこと。平成14年には、理事としての功績が認められ厚生省推薦で藍綬褒章を戴き、太政天皇から身近にお言葉を戴いたこと、そして今度は文部省推薦で叙勲となり、今上天皇の拝謁がかなうこと。

ところが、コロナの発生で上京も拝謁も無し。勲記・勲章は後程送りますの通知。そして、届くのが8月17日以後だという。県立医大では7月末文部省に行って受け取っているがコロナ猶予2週間を経て17日が文部省の解禁日だという。せめてお盆の墓前に飾りたいと頼み、8月13日に受け取れた。

昭和34年卒業時には、生家から通える病院にでもと思っていたが、やっと3月末近くに、福島県立医大に行きなさいの命令？ 当時は教授の一声で

すべて決まる状況でした。

医大初出勤時には、同期生菅野勇範さんが卒業・職場復帰でいたこともあり、松川教授・上田技師長も宮城県出身なので、お花見、歓迎会では子供のころから聞き覚えた宮城民謡で人気者にされ(カラオケというものがなかった)、すぐ職場に打ち解けはしたが、初月給が5400円？ 下宿代を払うと残額500円程度。(ラーメン35円)。

一年持たずに生家に帰ろうかという想いの中で、39年間医大に居られたのは、特記すべき二人の方がおられたからです。

酒好きなことは花見の席でバレてしまいましたが、安月給なのに夜ごと飲み誘ってくれ、財布を出す『おめー下宿代も払えねーくせに』と喋って飲ませてくれたK君。彼は自宅通勤の分余裕があったのでしょ。

それでも二年ぐらい経つと生活苦しさから生家に帰ろうとした時救ってくれたのがH君。当時、医大ではエックス線技師補助員を雇い、技師養成所に送り出す方法がとられてましたが、彼は、養成所に行くからその間わが家に居候して、妹の勉強相談を頼むという。もちろんOKで、結婚するまで居続けたズーズーしい居候でした。

技師歴60年の中で、多くの方々に迷惑をかけ、お世話になりながら過ごしてきましたが、このお二人がいなければこの栄誉もなかったと、改めて感謝しております。

## 伊藤陸郎氏 略歴

### 学歴等

昭和31年 3月31日	宮城県立築館高等学校卒業
昭和34年 3月19日	東北大学医学部附属診療エックス線技師学校卒業
昭和34年 8月 3日	診療エックス線技師免許（福島県第177号）
昭和44年 8月12日	診療放射線技師免許（厚生省第3589号）

### 職歴等

昭和34年 4月 1日	福島県立医科大学附属病院勤務
昭和61年 4月 1日	福島県立医科大学附属病院放射線技師長
平成10年 3月31日	退職
平成12年 7月 1日	医療法人明治病院嘱託勤務
平成29年 6月30日	退職

### 団体歴

平成元年 4月 1日	福島県放射線技師会会長
平成 3年 6月12日	社団法人福島県放射線技師会会長
平成 6年 4月 1日	社団法人日本放射線技師会理事

### 表彰歴

昭和54年11月22日	福島県知事表彰（永年勤続20年功労表彰）
昭和63年 4月23日	福島県放射線技師会会長表彰（永年勤続20年以上功労）
平成元年11月30日	福島県知事表彰（永年勤続30年功労表彰）
平成 3年 9月17日	社団法人日本放射線技師会会長表彰（永年勤続25年以上功労）
平成 9年 6月13日	厚生大臣表彰（保健医療功労）
平成14年11月 3日	藍綬褒章受章
平成22年 6月 5日	社団法人日本放射線技師会会長表彰（永年勤続50年以上功労）
令和 2年 4月29日	叙勲 瑞宝双光章受賞

# 瑞宝双光章 叙勲おめでとうございます

福島県診療放射線技師会

会長 新里 昌一

伊藤陸郎様、令和2年度春の瑞宝双光章受勲おめでとうございます。

伊藤さんは、県立福島医科大学附属病院に長年勤務されて放射線部技師長としてご活躍されました。県立福島医科大学附属病院を退職後も、明治病院で長年勤務続けて来られました。長年に渡り県技師会会長を務められ、その後も事務局長や顧問を歴任されてご尽力されました。長年、自宅を事務所として貸していただき、東日本大震災の際には住民から多種多様の電話等にも対応をしていただきました。

県会長として、技師会の全国大会を誘致や社団法人への移行等にご尽力いただいた事、多くの手腕を発揮し本会を支えていただきました。個人的には、福放技ニュース175号の巻頭言でも記載しましたが、私に学術の道を示していただいた大恩人

です。あの東北部会福島開催でのMRセッションの座長がなければ、今の私は存在しないと考えます。

また、遊佐事務局長と阿部副会長には、叙勲に関して資料を集め文章作成、県庁への交渉と大変ご尽力をいただきました。本当にありがとうございます。

今回の受勲は、伊藤さんやご家族はもとより県技師会としても、本当に名誉な事であります。長年の病院勤務を通じて地域医療・保健衛生活動への社会貢献が認められた事になりました。

伊藤さんには、今後もお体をご自愛されまして、私を含めた後進へのご指導ご鞭撻を賜りますよう、宜しく願いいたします。

簡単ではありますが、私からのお祝いの言葉といたします。

# 令和2年春の叙勲を受章して

三春町立三春病院

佐藤 政春

この度、公益社団法人福島県診療放射線技師会よりご推薦いただき令和2年度春の叙勲を受章しましたこと、長年にわたりご指導ご支援いただいた諸先輩の方々、本会会員の皆様、職場の皆様にご心より感謝申し上げます。また推薦の事務手続きに幾度も県とのやり取りにご苦勞いただいた遊佐事務局長にあらためて感謝申し上げます。

3月17日、遊佐事務局長より叙勲が内定したので出欠等の書類をメール添付で返送願いたいとの連絡を受けました。出席の返事を送ったもの日本でも新型コロナウイルス感染症が拡大する頃でした。拝謁は5月13日午後1時30分皇居宮殿、当日の集合場所はホテルオークラ東京「平安の間」バスで皇居に向かうとなっていたので前泊が無難と思いホテルオークラを予約しました。しかしながら新型コロナウイルス感染症は日本の大都市で急増し、この状況で皇居宮殿での拝謁は困難と思いい4月9日にホテルをキャンセルしました。4月16日には緊急事態宣言が日本全国に発令されました。同日、遊佐事務局長経由で県から「令和2年春の叙勲受章者の拝謁及び伝達式の中止について：厚生労働省」の通知をいただきました。拝謁及び伝達式は中止ではありましたが令和2年4月29日付で令和2年春の叙勲が発令されました。受章者は全国で4298名(厚労省関連480名)県内78名でした。5月8日、県より県知事伝達式を中止し個別に伝達を行うとの連絡が入り叙勲伝達式は本県が対象地域から除外された日以降に改めて連絡するとのことでした。緊急事態宣言が解除されしばらくしてから県中地方振興局(郡山市合同庁舎)から元三春町長の鈴木義孝氏と私の2名の叙勲伝達式を三春町役場で行うとの連絡がありました。

6月11日三春町役場2F応接室において県中地方振興局小柴宏幸局長から鈴木義孝氏に続いて勲記、勲章の伝達を受けました。

人生を振り返り、気が付くと大きな病気やケガもせず診療放射線技師歴46年でした。あらためて

職場の皆様やご指導頂きました諸先輩の方々、本会の皆様、家族に感謝申し上げます。

平成19年4月1日より三春町立三春病院(指定管理者：財団法人星総合病院)放射線科技師長代理として病院の立ち上げから移動となりました。平成25年1月定年(60歳)定年を迎えましたが、その後嘱託として勤務。平成30年1月からは再雇用契約職員として勤務し現在に至っております。

技師会活動としては、平成19年4月から社団法人福島県放射線技師会理事及び県南支部副支部長を務めさせていただきました。平成29年5月27日まで公益社団法人福島県診療放射線技師会の理事を10年間務めさせていただきました。理事の他に県技師会の精度管理委員会委員長を務めさせていただきました。X線装置の精度管理は精度を上げるためにはそれなりの道具が、また被ばく線量低減には線量把握のため線量計が必要不可欠です。そのため、X線アナライザーを技師会で購入し会員に貸し出すようにしたいと提案し承認されました。様々な研究、研究発表にも使えるようにと片倉氏の意見もあり、最上位の多機能型・X線アナライザーを購入していただくことが出来ました。県内、のべ61装置のデータを集め学術大会で精度管理委員会報告ができたことは、私の技師会活動の思い出の一つでもあります。新型コロナウイルス感染症の影響で技師会のイベントが中止やWeb開催となり会員の皆様と直接会う機会が無くなり非常に残念です。わたくし事ですがアマチュア無線局を50年ぶりに再開局して感染の心配の無い無線を楽しんでいます。新型コロナ感染症が1日も早く収まって技師会のイベント会場で皆様方と元氣にお会いできることを願っております。最後に、公益社団法人福島県診療放射線技師会の益々のご発展並びに会員の皆様のご健勝とご活躍をご祈念申し上げ受章のお礼といたします。

## 佐藤政春氏 略歴

### 学歴等

昭和49年3月1日 京都放射線技術専門学校卒業  
昭和49年5月24日 診療放射線技師免許取得（厚生省第12340号）

### 職歴等

昭和49年4月1日 埼玉医科大学附属病院 勤務  
昭和55年4月1日 財団法人 星総合病院 勤務  
平成19年4月1日 三春町立三春病院（指定管理者財団法人星総合病院）へ移動  
平成25年1月31日 三春町立三春病院（指定管理者財団法人星総合病院）退職  
平成25年2月1日 三春町立三春病院（指定管理者財団法人星総合病院）勤務  
平成30年1月31日 三春町立三春病院（指定管理者公益財団法人星総合病院）退職  
平成30年2月1日 三春町立三春病院（指定管理者公益財団法人星総合病院）勤務

### 団体歴

平成19年4月1日 社団法人福島県放射線技師会県南支部・副支部長  
平成21年4月1日 社団法人福島県放射線技師会県南支部・支部長  
平成25年4月1日 公益社団法人福島県診療放射線技師会・県南地区協議会委員長  
平成19年5月26日 社団法人福島県放射線技師会理事  
平成25年5月25日 公益社団法人福島県診療放射線技師会理事

### 表彰歴

平成7年5月27日 社団法人福島県放射線技師会会長表彰（永年勤続20年）  
平成13年4月19日 星総合病院永年勤続表彰（永年勤続20年）  
平成17年6月4日 社団法人日本放射線技師会会長表彰（永年勤続30年）  
平成23年4月21日 星総合病院永年勤続表彰（永年勤続30年）  
令和元年5月3日 福島県知事表彰（保健衛生功勞表彰）  
令和2年4月29日 叙勲 瑞宝双光章受章

# 瑞宝双光章 叙勲おめでとうございます

福島県診療放射線技師会

会長 新里 昌一

佐藤政春様、令和2年度春の瑞宝双光章受勲おめでとうございます。

佐藤さんは、星総合病院に長年勤務されて技師長としてご活躍されました。星総合病院を退職後も、三春病院で勤務続けていました。長年に渡り県技師会理事を務められ、県南地区では支部長(その後、地区協議会委員長)として、手腕を発揮し本会を支えていただきました。

私が西ノ内に転職した平成元年頃は、心カテ検査はシネフィルム使用の時代でした。シネフィルムの現像には大変、気を遣いましたがその管理ソフトを佐藤さんが作成して西ノ内でも使わせていただけていました。このソフトを作成した、佐藤さんと言う方はどんな技師さんだろうと思っておりました。県南支部役員になってからは、色々ご指導をいただきました。当時は、学術担当の菅野和之さんと佐藤さんは、私にとって憧れの先輩でした。

一緒に理事になってからも教わる事が多々ありました。精度管理委員長として、X線アナライザー(ピラニア)の必要性を訴えて購入し県内で使用し

ています。法令改正があり、装置の出力等の必要性が増しましたが、先賢の目があったと感心しております。また、誰もやりたがらない技師連盟の初代代表も快く務めていただきました。

また、遊佐事務局長にはいつも叙勲に関して資料を集め文章作成、県庁への交渉と大変ご尽力をいただきました。本当にありがとうございます。

COVID19の影響で叙勲の伝達も6月に延期されました。本来なら多くの方と叙勲のお祝いを行いたいところですが、佐藤さんから感染拡大を懸念し祝賀会は自粛との話を聞きました。大変残念ではありますが了承いたしました。

今回の受勲は、佐藤さんやご家族はもとより県技師会としても、本当に名誉な事であります。長年の病院勤務を通じて地域医療・保健衛生活動への社会貢献が認められた事になりました。

佐藤さんには、今後もお体をご自愛されまして、私を含めた後進へのご指導ご鞭撻を賜りますよう、宜しく願いいたします。

簡単ではありますが、私からのお祝いの言葉といたします。

# 「永年勤続50年表彰」受賞にあたって

B. B. M. I. L.

片倉 俊彦

2020年暮れ、JARTから宅急便が届いた。

中を見ると永年勤続の表彰状と造幣局製の銀のメダルであった。私には人生の記念として、大変有り難いことではあるが、私の遺族がこれをどのように扱うか思案の種が増えることに申し訳ない気も胸をよぎる。長足な技術革新や未曾有の大震災やコロナの自然災害で劇的に変化する社会や多様化する個人の処世観を思慮するとき、初代中村会長の50年前と変わらぬ慣習から抜けきれない対応にこれで良いのかと不安になる。

老人の杞憂はさておき、自分の50年を振り返ると不満だらけで「どうしてこんな不条理な世の中なんだ」と斜に構える自分しか見えない。このようなストレスの大半は社会的に認知されない自分の生業によるものであり、「医師と看護師の影のような扱い」「激安の給料」がその具現化である。この社会的仕組みには抗うべくもなく現在でも変わらないように見える。

私は大きく2つの代償行動でこのストレスを発散してきたように思う。影の薄い薄給技師である私の一つめの代償行動は、「患者さんのためになる業務を楽しくできる仕組みと環境が欲しい」といって、赤ひげ先生とナイチンゲールのホスピタリティ最優先に抗い、自身への人間らしい扱いを求めることであった。

一晚中、病院に待機し、何時でも撮影。

8時間はすべて患者の時間、始業点検は時間外に。

新装置の操作習熟や性能評価は徹夜でやって当然。

最新技術の習得とスキルアップの自己研鑽。

これらの作業は給料の代価ではないですか？家に帰って大好きな家族にほおずりをするのは、全く必要のない作業ですよ？

お金を払わないという上司、それが医療職として当たり前という医師や看護師に対して「仕事をさせたいなら人、物、金をくれ」と「ゴネ」てストレス発散していた。おかげさまで未だに怖い技師、融通の利かない技師というレッテルは取れないようである。

もう一つの代償行動は放射線技師独自の知識の発露であった。放射線技師が一番良く知っていると周囲が認めざるを得ない状況が生まれ、自己の存在感が増したように感じた（自己満足の世界）。

これにはいくつかの転機がある。一つはX線写真の定量的規格化であり、他の一つはX線画像のデジタル化だった。私が放射線技師になった当時、X線写真はそれぞれの医師の好みによって画質の調整を行っていた。しかし自動現像機が導入され、現像課程での調整ができないことから画質はX線、増感紙、Filmの条件によって決まることとなる。従来であれば、すべて医師が決めるところであるが、私たち技師はMTFやノイズ評価という数値定量評価の技術を有していたため医師も技師の意見を取り入れざるを得ない状況となった。放射線技師のことを医師が聞き入れる状況は「虎の威を借る狐」ではあるが、存在感が増した感じがした。

そして、医用画像のデジタル化である。

CT、MRI、CR等の出現によって医師が長年をかけて培ってきた経験や診断基準が崩壊し、データベースの再構築を迫られた時期であったと思われる。

コントラスト分解能の高い横断画像のX線CT、画像の濃淡因子が従来未経験のMRI、空間分解能の劣化したマンモグラフィーや胸部写真への対応が典型的であったように感じられた。新しい画像に対応する医師と新しい技術による画像を作る技師の関係は、法律とは異なり対等な関係に思えた。

次々に改良発展する装置と画像の改善情報の数値的データは客観的な説得力を持ち医師も素直に納得した。このように装置を理解し画像を評価できる医療職種は放射線技師がほとんどであり、存在感は増していると感じた。私の職歴は恵まれた世相とともにあり、先輩同僚後輩の暖かい擁護に恵まれたラッキーな50年であった。ただ感謝あるのみである。

近年、大量データのAI技術が台頭してきた。画像が医師のみで消化されつつあるように思われ、技師の技術的アプローチも以前ほど求められないように感じられる。しかしながら、AIの学習データはすべて過去のデータである。装置や画質を技師の視点で分類しAIの正診率をチェックするなど、新技術への果敢な挑戦によって停滞ぎみの医用画像技術の進展を促し、さらなる社会的存在感のUPにつながる後輩の精進を期待して止まない。老い先短い先輩の願いである。

# 永年勤続30年表彰を受けて

公立大学法人福島県立医科大学附属病院

阿部 郁明

先日、日本診療放射線技師会より勤続30年の表彰状が届きました。例年であれば学術大会の中で表彰が行われてきましたが、新型コロナウイルス感染症の関係で学術大会もweb開催となったため直接手元に届いたようです。

ともあれこれまで30年間という長きにわたり勤務できたのは諸先輩方をはじめ職場の多くの皆様方のご指導のおかげであります。この場をお借りしまして御礼を申し上げます。

平成元年、私は放射線技師として福島県に採用され、いわき市の平保健所に配属されました。福島市出身の私は、福島市近辺を希望しておりましたので随分遠くに飛ばされるんだなと思いました。保健所での放射線技師としての仕事は「結核健康診断」と所内のクリニック業務「3歳児検診」だったと記憶しています。それらの業務以外は衛生統計等の事務的な仕事も担当しました。

胸部X線撮影は検診車に乗り込み移動した現場にてロールフィルムを使用し撮影していました。1年目の頃だったと思います。そのロールフィルムを現像処理中に少し目を離した隙にフィルムが自動現像機内で絡まってしまい結果として多人数の再撮影をしなければならなくなってしまった苦い出来事が思い出されます。

その後、県立大野病院に異動しました。こちらの病院は整形外科がメインの病院で毎日汗だくになりながら骨撮影をこなしていたことが思い出されます。大野病院の周辺は何も無い所で…言い換えると自然に恵まれた環境の良いところでしたので在籍中は海釣り等を楽しんでいました。釣りの楽しいところは釣る楽しさと食べる楽しさの一石二鳥であるところです。とある晩に電気ウキを使って夜釣りをした時、思いもしなかった大物の鱸(すずき)を釣り上げたのが良い思い出です。50cmを超える大物でした。(過大評価かも…)

その後、福島医大に異動となり現在に至ります。医大が私の技師としての勤務期間の最も長い場所となっております。

最後になりますが県技師会との関りは会計担当時代を含めると10数年?少し曖昧な記憶で申し訳ありません。現在は副会長を担当させていただいております。微力ではございますが福島県診療放射線技師会の更なる発展に少しでも貢献できますようこの先も努力をしてみたいと考えておりますので、今後とも皆様からの変わらぬご指導を頂きますようお願い申し上げますお礼の挨拶とさせていただきます。

# 永年勤続30年表彰を受けて

福島県立医科大学新医療系学部設置準備室

久保 均

新型コロナウイルス感染拡大予防にかこつけて自宅でゴロゴロしていたときに、ピンポン、と宅配業者さんが一つの箱を届けてくれた。特にその日は何かが届くという予定もなかったので何だろう？と送り主を見たら、日本診療放射線技師会となっていた。いや、特に何も悪いことはしてないよ…、と心の中で少々焦りながら開封してみたら、立派な賞状とどう開けるかわからない小さな桐箱が入っており、永年勤続30年表彰、となっていた。え、そうか…、もう卒業してから30年になるのか…、とわかっているはずなのになぜか感慨深く、この30年間で走馬灯のように頭の中を駆け巡った。

診療放射線技師として臨床現場でビシビシと鍛えられた若い頃、大学病院で勤務しながら先輩診療放射線技師、医師、そして工学系の研究者の方と一緒に研究して学会発表や論文作成を指導してもらっていた頃、自身が教員となって初めて学生を指導するときのどうして良いかわからなかった頃、米国に留学して英語を聞きたくなくて引きこもってしまった頃、そして福島へ来て今に至るまでのこと…。全てがこの30年の間にあった

ことなんだ、と改めてこの時の長さを感じたものであった。

賞状などと一緒に添えられていたJARTのNetwork Nowに掲載されていた永年勤続表彰者のリストを同級生はどうしているかな？と思って見ていたが、知っている名前を見つけるたびに学生時代に一瞬でタイムトリップして色々なことが思い出されて楽しかった。でも、あれ、これだけしか載ってないの？という感じもあり、思いのほか掲載されていないのにびっくりした。皆さん、色々な人生があったのだな…と思いをはせたところであった。

人生の巡り合わせというか何かに導かれてというか…、ここ福島に縁あってたどり着きましたので、与えられた役割をしっかりと果たしながら診療放射線技師の一員としてその責務を果たして参りたいと思っております。今後も、引き続きのご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

(ちなみに、開け方がわからなかった桐箱は悪戦苦闘の後に無事に開けることができ、立派なピンバッジが入っていました。)

# 永年勤続30年表彰を受けて

公立大学法人福島県立医科大学附属病院

清野 真也

この度、日本放射線技師会より永年勤続30年表彰をいただきまして誠にありがとうございます。これまで御指導を頂いた諸先輩方、並びに日常の業務に尽力いただいている同僚、スタッフの皆様に感謝を申し上げます。

あまり過去を振り返る機会というのはございませんが、今回の寄稿依頼を受けて放射線技師としての自分を思い起こしてみたいと思います。私は高校時代、教員になることを志望しておりました。親友が医療系への進学を希望していたのがきっかけで、東北大学医療技術短期大学部を受験し、生物より物理が得意だったという理由だけで診療放射線技術学科を選択しました。今こうして元々の志望ではなかった診療放射線技師という職を無事30年務められたことは、そのきっかけを与えてくれた親友にも感謝しなければなりません。

平成元年、卒業と同時に福島県立医科大学附属病院に入職いたしました。福島医大が光が丘に移転して2年目でしたので真新しい施設や設備に心躍ったことを思い出します。入職当初は救急業務をこなすことを目標に業務を覚えましたが、その中でも救急センターでの脳血管撮影が非常に緊張した記憶があります。カセット2枚を瞬時に入れ替えて動脈相と静脈相を撮影しなければなりません。造影剤注入医師とタイミングを合わせて曝射するのですが、新人の自分には“神業”に思えた業務でした。数年の実務経験を積んだ後CT部門へ配属されるのですが、ここで放射線技師の面白さや魅力を見つけたのではないかと今振り返って思います。ヘリカルCTが臨床利用され始めのことで、5mmの動脈瘤をサーフェスレンジリングで描出することを脳外科の医師と先輩技師の方々が一緒に検討している姿をみて自分の技術や仕事が臨床に役立てるということを実感しました。また技師会や全国の学会に参加することによって、他の地域の志を同じにする方々と交流出来たのも良い経験となりました。その後3年間ほどの短期

間ではありますが、血管撮影部門に従事した時期にもCTでの経験を生かしてIVR-CTや3D-DSAの運用について臨床科の医師とコミュニケーションをとることができ、臨床的知識を身に着ける上で重要な時期だったと感じております。私は現在に至るまで15年超の期間をMRI検査に専従しております。MRI検査の魅力は検査の自由度が高く多種あるシーケンスやパラメータを駆使して検査の目的に合った“強調画像”を自らコントロールできる点にあると思っています。最新の装置ではMRI検査にもAIが導入され、ルーチン検査の位置決めは自動で行える装置が出てきており、検査のオートメーション化が可能となってきております。

こうして30年を振り返ると医療機器は凄まじい進化を遂げ、技師の技量に囚われることなく安定した情報を各モダリティで提供できるようになってきており、今後どこまでAIが進化して我々の職域に介入してくるかは想像しがたいものがあります。しかし、我々は決して作業員ではなく技師であり技術者だという自覚を忘れてはならないと思います。

今年は震災から10年という節目の年です。原子力発電所事故は放射線技師と雖も自分の放射線防護や管理の知識が不足していることを痛感させられた事象でした。不安の中で防護着の着方やサーベイの手順、そして放射線の影響など皆で学習しながら対処したことを思い出します。専門外の知識も技師会の学習会などに参加して身に付けておく大切さを実感しました。そして今、コロナ禍という先行きの見えない事象と対峙しています。福島県の医療体制も逼迫しており緊張が続いております。一医療人として明るい兆しが見え早期終息することを願っております。

最後になりましたが、健康で放射線技師業務が継続できる限り、技師会活動にも微力ながら協力して参りたいと思います。今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

# 永年勤続30年表彰を受けて

いわき市医療センター

折笠 秀樹

この度日本放射線技師会より、永年勤続30年表彰を頂きました。これまでお世話になりました諸先輩及び職場の皆様感謝いたします。平成元年に診療放射線技師の資格を取り、東京で2年間健診業務を行い、いわき市へ戻り、いわき市立好間病院へ勤務し5年後、同病院が民間へ移譲されることになり、いわき市立総合磐城共立病院へ勤務することになり2018年12月25日に現在のいわき市医療センターで勤務しております。私が技師へなった当時は、フィルム・スクリーンのため撮影条件等で濃度差が出るため苦慮しましたが、CTの撮影時間が、1スライス4.5秒から9秒でした。

現在、いわき市医療センターで勤務することができ、新しい装置で業務が出来ることは幸せですが、モダリティが多い分まだまだ勉強不足だと痛感いたします。

技師会活動においては、いわき市へ帰ってきてから、参加するようになりました。特に技師会で宿泊付きの懇親会では、各施設及びメーカーの方と楽しく情報交換ができたこと思い出します。

心臓カテーテル検査に従事している際はシネ研、核医学検査に携わることになり、県内の各施設の技師の方にはいろいろ教えてました。いわき地区画像研究会の立ち上げ、現在まで34回の勉強会を世話人として開催してきました。いわき地区は、勉強会の活発な地域と離れているため勉強会に参加する機会が少なく、毎回30名以上の各施設の技師の方々が参加していただき講師には、東京

と一緒に仕事をした佐藤氏に上部消化管撮影の講師をお願いし、また、第33回いわき地区画像研究会では、念願でした私が学生の時に実習でお世話になりました昭和大学の加藤教授に、いわきまで来ていただき講演をして頂きました。私の技師人生で人とのコミュニケーションで勉強になり、助かることが多かったと感じます。

磐城共立病院で業務に追われ勉強など難しいと考えていた頃、先輩に電子カルテ・PACS及び画像ネットワークについて手助けしてほしいとお願いされ仕方がなく少し勉強したら、県内各施設の方がそれ以上に勉強をして教えて頂き、現在のいわき市医療センターへ移動する際に大変役に立ちました。皆様には大変お世話になりました。全国自治体病院協議会を福島で開催する際、当時の技師長が放射線部会をまとめることになり、県立医大及びその他の自治体病院の技師の皆様には大変お世話になりました。

勉強会で発表するようになり、自分も恥ずかしい思いをしないように調べたり、教えてもらうことで少しは知識が増えてきているのかなと感じています。

現在、コロナ禍の中、勉強会もWeb中心となり、人とのコミュニケーションが取りにくくなっている事が非常に残念に思っております。

退職まで残り数年、また生涯現役技師として頑張りたいと思いますので今まで以上、ご指導ご鞭撻のほどよろしく願いいたします。

# 永年勤続30年表彰を受けて

医療生協 わたり病院

渡辺 進

「ミナサン オゲンキデスカ〜 シツレイシマ〜ス」という、某自動車メーカーのCMがいつの間にか無言になった年の暮れ（同年代の方は記憶にあるでしょうか）、「是が非でも放射線技師に」といった意思も若干薄いながら、「国試」に落ちたらいろんなものが無になってしまうと必死に勉強をしました。

明けて平成元年4月になんとか国試合格。「数年は都会で経験を」などと思ったものの、奨学金を受けていたことや学生の時から大変良くして頂いた縁で、とっっても家族的な120床ほどの病院に就職しました。

あの時から30年以上も過ぎてしまったとは驚きです、あつという間のことのように感じています。そしてこの度、永年勤続30年表彰を頂きました。大変ありがとうございます。

せっかくの機会ですので、これまでを少し振り返ってみました。

当時、就職した施設は私を入れて技師3名でした、TV装置とCT装置、時々検査が入る心カテ装置があるくらいで、大学病院などに就職した同級生に会うと内心羨ましく思ったものです。

しかし、無い物ねだりをしてもしょうがない、自分の技術を身に付けようと上部消化管検査に熱中しました。4年ほどした頃に、よく参加していた消化器の勉強会がきっかけでわたり病院に誘っていただきました。移動後はラッキーなことに下部消化管と腹部超音波検査という、更にテクニクと画像を捉える目が必要となる分野にも取り組ませて頂きました。とりわけ超音波検査は今でも熱が冷めることなく取り組んでおり、頸動脈や甲状腺・乳腺などと領域が広がっています。

今にして思うと、この分野は放射線技師の仕事の中でも自分に合っていたと感じています。

放射線技師会との関わりですが、就職した年の夏に「盛岡の学術大会へ行かせるから入会を」と勧められるままに入会して現在に至ります（なぜ

か技術学会にも同時入会していましたが）。

土日に行われていた「統一講習会」や「認定講習会」が思い起こされます。統一講習会をクリアすると専門学校卒もさらに上の扱いになる、などという話があったような無かったような、とにかく真面目に受講しレポート提出をしていた事を記憶しています。

わたり病院に職場を変えてから暫くして「消化器撮影分科会」の世話人を数年間務めさせて頂きました、勉強会のテーマや企画には毎回悩みましたが、消化器画像診断という志の近い多くの方々と出会うことができるとても充実していました。本当に感謝しています。

最近の名ばかりの面は否定できませんが、県北協議会の委員に加えて頂いています。

2020年は新型コロナウイルスにより勉強会はおろか、委員会さえもままならない状況でした。リモートによる勉強会は、物理的に参加できなくても講演が聞けるなどのメリットはありますが、やはり対面での情報交換などには勝れないのも事実です。

一年経過しても収束（終息）には程遠く、今後もしばらくは覚悟しないとイケないようです。

最前線に対応にあたっている方々には心から敬意を表します。

簡単に振り返ってみました、いろいろな出来事があり本当に多くの方々に出会い支えて頂いたことを改めて実感しています。

この場をお借りして心より感謝いたします。

もちろん、一番近くで支えてくれた妻や家族にも感謝しなければなりません。

あと10年くらいは放射線技師として働かせていただくつもりです。これまでの恩返しのつもりでも取り組んでいけたらと思います。

皆様これからもどうぞよろしく願いいたします。

# 永年勤続30年表彰を受けて

独立行政法人地域医療機能推進機構【JCHO】二本松病院

服部 正人

この度は、30年永年勤続の表彰を頂き誠にありがとうございます。これもひとえにご指導・ご教授頂いた諸先輩・各科先生方及び、影となり支えてくれた当放射線室スタッフの皆様へ感謝申し上げます。「光陰矢の如し」と言われますが、この寄稿に寄せまして、これまでのライフタイムを振り返ってみようと思います。

そもそも、自分は、診療放射線技師を目指していたわけではありません。当初は、歯科技工士を目指していました。

昭和54年高校を卒業後、各職業（自動販売機専門の配送業務、少しやばい電話勧誘販売、土建業等、etc.）を転々とし当時、生意気小僧として象徴的な、長髪アフロヘアで、世の中を闊歩しておりました。その中で土建業の親方に「お前は、こんな仕事を続けて良い人間じゃねえ」と一喝されまして、4年ほどふざけた人生を堪能したのち《手に職》をつけるべく歯科技工士を目指して学業の方へ戻った次第です。しかしながら、当時でも私学の学費は入学金を含め数百万円と高額であり、こつこつアルバイトで資金を得ながら勤んでいたところ、母方の二人の叔母より、「どうせやるなら、バイト額の高いこちら（埼玉・東京ですが）へ出て来てやりなさい。」と言われ、挙句、バイト先は決めてある、レントゲン技師（当時は、レントゲン技師でした。）ではどうかと、果たして母を含めた3人に嵌められたなと思いつつ優柔不断であった為、それに従った次第であります。

働きながらの学問を希望しておりましたので、夜学の放射線専門学校に入学したのち、埼玉県のパートレース競技で有名な某市の総合病院（新型コロナでクラスターを起こしてしまい有名になってしまいました。）で、今に言うパワハラに極近い強烈な指導のもと治療・RI・MRIを除き、めきめきと頭角を現した次第であります。その頃がレントゲン技師から診療放射線技師へ名称が変わったはずです。

卒業してその後、家庭の事情で実家へ戻り、前身の社会保険二本松病院に勤務しましたのが平成元年です。当時の二本松病院は、その前身が結核病院ということで業務内容は、健診車業務でほぼ占めており70mm・100mm間接フィルム、自動現像90sec処理、CTに関しては、自動音声ではなく操作技師が発するという超アナログ的な設備でした。平成5年に新病院棟が新築され、同時に検診車が間接から直接フィルムへ移行され始め、一般撮影2室・マンモ撮影室・X-TV撮影2室・CT検査室・MRI検査室・血管撮影室・外科用イメージ・ポータブル装置が新設され、自動現像45sec処理2機と共にフィルムの自動処理化が可能となりました。

当時、新設されたMRIは、0.5Tではありますが当時としては、早かったように覚えています。いきなり担当を命ぜられ、関連病院である宇都宮病院へ単身、3日間研修（宇都宮病院も0.5Tでした。）へ行かされ、ほぼ独学に近い状態であったことを記憶しています。CTに関しては、コンベンショナルからヘリカルへ移行し平成19年に8列マルチスライスへ移行となりました。

その後、平成25年に社会保険庁の年金問題が露呈し、社会保険病院母体の全国社会保険連合会が解体され現在の独立行政法人地域医療機能推進機構の枠へ編入された次第です。

現在は、MRIがやっと1.5Tに更新され、一部一般撮影・X-TV装置・ポータブル撮影のFPD化が実現し、前社会保険病院時と違い経営状態により行えることができます。また、来年度の更新は、CT装置の64列化及びマンモ装置のFPD化が実現しそうです。やっと他の病院と肩を並べられる様になるかなと感じています。

長々と羅列しましたが、最後に診療放射線技師会各位の益々のご活躍、ご発展をご祈念いたし、御礼の挨拶とさせていただきます。

# 永年勤続30年表彰を受けて

寿泉堂総合病院

緑川 喜雄

この度は永年勤続30年表彰をいただきまして誠にありがとうございます。

これまで30年勤めてこれましたのも多くの方からのご指導、支えがあったからこそ思っております。この場をお借りして御礼申し上げます。

平成元年に寿泉堂総合病院に入職し、思えばあつという間の30年でありました。当時は技師の人数が少なかったこともあり、とにかく「オールマイティーに何でもこなせること」が至上命令で、あわただしくもやりがいのある毎日でした。色々なモダリティーを経験させていただけたのは技師冥利につきるところで、中でも当院では初めて導入された心カテ装置の担当となり、最初の1例目を迎えた時の緊張感、ヘリカルスキャンの技術革新のあったCT装置の担当を任された時のワクワク感は今でも忘れません。

30年の中で、CTを担当していたのが一番長かったこともあり、コンベンショナルスキャン→ヘリカルスキャン→マルチスライス→更なる多列化への進化は、30年の時の流れを反映する最たるもののように思います。4列のマルチスライスCTが導入された当時、同時に入った3Dワークステーションに夢中になり、何時間もかけて3D画像を作ったものですが、今やほぼAUTOで画像が出来るようになり、技術の進歩に驚くとともに、“年取ったなあ”とつくづく痛感させられる現在であります。

寿泉堂総合病院も30年の間に機器の整備と人員の拡充が進み、2011年2月には新病院開設とともに放射線治療（トモセラピー）も導入し、人員も入職した当時より3倍程度に増えました。ところがその翌月、東日本大震災を経験することになります。大変な混乱の中、多くの方々の協力のもと診療を続けることができました。その後平穏が戻りつつあった状況で、今度はコロナによる緊張の日々が続いています。平穏な日常というものが如何に尊いものか、身につまされる思いです。元通りの日常には戻らないのかもしれませんが、1日も早く平穏な日々が戻ることを願ってやみません。

この30年を改めて振り返ってみると、新しい技術や知識の習得に自分なりに頑張れたのかなと思う反面、放射線技師として地域医療というものに本当に十分貢献することができたのだろうかと不安に思う事もあります。今後も微力ではありますが、諸先輩方から指導いただいた事、そして30年という経験を後輩たちに上手く伝えながら、患者さんのために尽力して参りたいと考えております。

最後になりましたが、このような貴重な機会をいただきました事、心より感謝申し上げます。これまで出会ったすべての方、そして何よりこれまで支えてくれた家族に感謝し御礼のあいさつとさせていただきます。本当にありがとうございました。

# 永年勤続20年表彰を受けて

(一財) 脳神経疾患研究所附属 総合南東北病院

三瓶 孝

当院の技師長から永年勤続20年の表彰の件を受けた時に、自分自身はあまり実感が湧きませんでした。同期入職のスタッフと話をすると、我々の入職年数は丁度2000年入社なので、計算しやすいと話していたことを思いだし、2020年を迎え、放射線技師として働き始めて20年になったことを改めて感じました。

私が『診療放射線技師』という職業を知ったのは、高校生の時、進学先を探している際に、大学の情報で医療系の大学が新設されることを知りました。その中でリハビリや看護などの職種はすぐに想像がつかいましたが、診療放射線技師という職業はよく判りませんでした。そこから進学や診療放射線技師のことを調べ、職種の特徴等を知るうちに、興味をもち始め、その当時開校から2年目の栃木県の国際医療福祉大学に進学する事が出来ました。栃木県大田原市にできて2年目の大学では、田舎にできた大学ということもあり、1、2年時は、バスの本数が少ない、街灯が少ない、コンビニは無い、と田舎ならではの環境でしたが、住み始めて4年も経つと様々な環境が変化し、とても過ごしやすい環境だったと感じています。

学生生活も無事、国家資格を取得することで終了し、2000年に現在勤務している総合南東北病院に就職しました。就職した時の診療放射線技師は20名程度で、現在の当院に比較すると、非常に小規模な個人病院でした。ただ、装置環境は良く、その当時では珍しい4ch-MDCTが導入され、1.5T-MRIが2台と様々な装置が導入されていました。就職した1年目から様々な装置に触れることができ、日々学ぶことが多かったように思いま

す。私が就職してからの当院は業務拡張がとても速く、外来専門部門である南東北医療クリニックの開院と同時に、3.0T-MRI、陽子線治療装置など、この20年で多種多様の機種が当院では導入されてきました。

医療業界では20年も経つと検査機器、薬剤、医療技術などが発展する状況を、機器の更新のたびに感じてきました。新しい機種では、面倒な操作作業や設定などが排除され操作時間が短く、何でも手軽に検査できる様になりました。院内で操作者に依存せず、安定した画像を提供できるという点では、とても良い発展であると考えます。ただ、何でも自動化されてしまうと、画質改善や、状況にあった撮影条件変更への対応が疎かになってくる感もあり、装置特性を知ること、基礎技術、原理を知った上で操作、撮影を行う必要があると感じています。

放射線技師の業務の中では『温故知新』という言葉がとても大切だと思います。装置の基礎原理、技術を知った上で新しい装置、技術を学ぶ事でシステムの理解が深まり放射線技師として最高の技術提供ができていけるかと考えます。私が20年間、放射線技師として働いてきて感じた事を記載させていただきました。私自身は職場での人間関係や、業務の環境に恵まれ、研究会などの活動でも+諸先輩方に声掛けを頂き、ここまで放射線技師を続けていくことができたと感じています。勤続20年となりますが、放射線技師としての折り返し地点と考え、今後も学ぶ事を忘れず、新しい道への挑戦もしていきたいと考えます。

# 永年勤続20年表彰を受けて

公益財団法人 仁泉会 北福島医療センター

松井 大樹

この度、名誉ある賞を賜りましたこと、まずは私の周りの多くの優秀な諸先輩方、同僚、チームの皆様、そして何より長きに亘り支えてくれた家族に厚く御礼申し上げます。

私が診療放射線技師を志したのは高校3年の秋でした。当時はラグビー部に在籍しており、部活に没頭して将来の展望など考えもしませんでした。やがて引退を迎え、自分に何が出来るのかを自問自答する時期がやってきました。1990年代後半という時代の世相も背景にあり、私は漠然と安定を求め、資格を取得し医療系に進みたいと考えました。なるべく親に負担をかけないようにと、自宅から通える学校を選出し、勉強に励みました。振り返ってみれば、非常に安直に将来を考えたものだと思ふけります。

以来、日々その瞬間をただ一生懸命がむしゃらに生きてきました。生まれ育った愛知県で1年間働いた後、25歳で福島市に移り住んだのも勢いであったと思います。そして、そのおかげで出会った人も数知れません。どこでも意外と生きていけるものだと実感したものです。

20年の歳月を経て、私を取り巻く環境も随分と移り変わりました。昔馴染みの店は姿を消し、周囲の風景も様変わりしました。私自身の祖父母も皆他界し、両親も後期高齢者の仲間入り。様々な病気をして心配には事欠きませんが、口は達者でいてくれて安堵しております。しかし、たまに会う度に見た目にも歳を感じるようになってきました。私自身も、最近著しい体力の低下を感じて、慌てて筋トレなどを始めております。時と共に、刻々と変わりゆく状況にいかに対応し対応していくかが、私の人生のテーマかもしれません。

この20年を思い返すと『日常が非日常となり、非日常が日常となった』という言葉が浮かびます。人は良くも悪くも忘れる生き物です。あの日あの時、どのような思いをしたか。それを忘れる為に、日々必死に生きているようにも思います。

変化や革新は世の常であり、誰しもそこから逃れることは出来ません。過去に縛られず、今に囚われないように生きていくのが結局私らしい生き方となるのだろうと考えます。

次から次へと天災はやってきましたが、私は比較的、非日常を敬遠しない人間であることにも気がつきました。逆に、日常が平和過ぎると不安になるのかもしれない。その衝動から何か行動を起こしたくなり、その結果、様々な認定技師資格を取得し、大学院修士課程学位取得まで漕ぎつけたのだと今は確信しております。

諸先輩方も仰っていましたが、この20年は『あつという間』という言葉がピッタリと当て嵌まります。歳を重ねる毎に時間の流れが非常に早く感じられ、この先はさらに早くなっていくでしょう。それを思うと、今日出来ることは今日のうちにやり終え、決して明日に回さないように心がけることが、私のこれからの課題となるはずで

そして、いずれ永年勤続30年となりましたら、私はどこで何をしているのかと、ふと思います。実は、その日が非常に楽しみなのです。今後の10年は、今の若い優秀な診療放射線技師の方達に後れをとらないよう日々是勉強、かつ裏方に徹して若い方が働きやすい環境や世間からの認知度も含め、診療放射線技師の地位向上を目指してまいります。また、福島県診療放射線技師会の益々の発展と輝かしい栄光の立役者となれるよう、不退転の覚悟で臨む決意を持っております。

最後になりましたが、樫山誠治という男が居たことをここに記させていただきます。本来であれば研究会のトップとして、若手の手本となる人物でありました。また技師会の役員としても、我々と切磋琢磨し共に頑張っていた仲間でありました。彼を唯一無二の存在として後世に語り継いでいくことも、私の使命と考えます。

改めまして、全ての方々の益々のご発展とご繁栄を祈念し、終わりの挨拶とさせていただきます。

# 永年勤続20年表彰を受けて

福島県立医科大学附属会津医療センター

長谷川和己

この度は永年勤続会員としてこのように表彰していただき、誠にありがとうございました。

勤続20年受賞の知らせを頂き改めてその歳月を実感いたしました。

思えば、20年という長い年月を楽しく働けることができましたのは、会員方々、職場の先輩方など、多くの皆様方のご指導とご協力のお陰でございませう。過ぎ去った年月を振り返りますと、表彰に値するような功績は、何一つ思い当たりませんが、ただ自分たちに与えられた仕事を精一杯できた、その喜びと充実感だけはつかむことができたと思っております。

さて私事、入職して初めて胸部X線撮影をしたときのことで今でも覚えているのは、実際患者様を目の前にして本当にこのまま自分が撮影してもよいのか？X線を照射してもよいのか？という思いでした。確かに今のデジタル撮影とは違い、フィルムスクリーン系での撮影ということもあり患者様個々に合った条件の選定もさることながら、なにか得体の知れない大きなものを感じたことを覚えています。

そんな駆け出しのころ、様々な勉強会に参加するなかで、気さくな先輩に声をかけていただいたこともありました。自分たちが行なっている勉強会へ参加しないかというものでした。当時右も左も解らない自分にとってとても有難いものでした。（まさか同じ職場で働くことになるとは想像もできませんでした。お世話になっております。）

その後、2005年に福島県立大野病院に就職。浜通りは初めてで、海の大きさと原子力発電所がこんなに身近に感じたのには驚きました。2007年福島県立会津総合病院に移動後2011年に震災時のスクリーニング検査、2013年に会津医療センターに移り会津技師会にて学術を担当させていただきました。2020年からは感染症対策病院として、対応に追われ今に至ります。

こうして思い返してみれば、ここまで私ができることができたのも、幸運にも縁があり巡り会えた皆様のおかげだと日々感謝しております。

これからも変わらずに、ご支援賜りたく思います。この度は、誠にありがとうございました。

# 学術奨励賞を受賞して

一般財団法人太田総合病院附属 太田西ノ内病院

橋谷田理香

この度、令和元年度福島県診療放射線技師学術大会において発表した「高圧注入対応型CVポートの造影CT検査における耐圧性能の基礎的検討」につきまして学術奨励賞を頂いたこと、深く御礼申し上げます。発表内容を以下にお示しいたします。

造影剤の高圧注入が可能なCVポートである「パワーポート<sup>®</sup>」が発売されていますが、当院ではまだ導入に至っていません。パワーポート<sup>®</sup>は、専用のヒューバー針であるパワーロック（19Gと20Gの2種類）を使用することで、5 ml/secまでの高流量注入が可能とされていますが、実際に臨床ではどの程度の注入速度まで注入可能かわかりませんでした。そこで、導入された場合に速やかに対応できるよう、自施設での造影CT検査を想定した注入実験を行い、耐圧性能を確認することとしました。

結果より、注入可能な最大流速は、当院での注入限界圧としている13kgf/cm（最も耐圧性の低いシリンジに合わせている）とパワーポート<sup>®</sup>の流速限界である5.0ml/secを考慮すると、造影剤濃度300mgI/mlの場合、パワーロック19Gで5.0ml/sec、パワーロック20Gで4.4ml/sec程度となることわかりました。また、造影剤濃度370mgI/mlの場合では、パワーロック19Gで4.3ml/sec、パワーロック20Gで3.5ml/sec程度となりました。これにより、パワーポート<sup>®</sup>からの造影CTは、CT-angiography

やダイナミック撮影なども対応可能なことが示唆されました。

ただし、造影剤注入時の最大圧の上昇には、造影チューブ、穿刺針、ポート内やカテーテル内圧などの要素が複合的に影響しており、シリンジの種類や造影剤の粘稠度によっては異なる結果となる可能性があります。

今回の実験では比較のために、パワーポート<sup>®</sup>の他に臨床使用はできませんが通常のチタンポートでも同様の注入実験を行い、圧力の変化を観察しました。すると、通常のチタンポートよりもパワーポート<sup>®</sup>のほうがヒューバー針を変化させた場合の圧力差が大きくなるということがわかり、検査目的に応じたヒューバー針の選択、確認は必須であると考えました。

実験を行う際は、ある程度結果を予測して挑むところはあると思いますが、「試しにやってみる」というところから意外な発見や面白さにつながることもあるのだと感じています。

最後になりますが、今回私が学術奨励賞を頂いたのはご指導頂きました先輩方のおかげであり、心より感謝申し上げます。また、本研究においてご協力頂きました皆様に重ねて御礼申し上げます。今後もより良い医療に貢献できるよう努めてまいりますので、ご指導ご鞭撻のほどよろしく願いいたします。

# 学術奨励賞を受賞して

いわき市医療センター

桑村 啓太

この度、令和元年度学術大会におきまして学術奨励賞を賜りましたこと、深く御礼申し上げます。

今回、「ガラス線量計を用いたkV-CBCTの線量測定の初期経験」という演題名で発表させていただきました。高度放射線治療を行う上で、画像誘導放射線治療 (IGRT) は不可欠となっています。IGRTを行う上で、ガイドラインによりIGRTシステムの精度管理としてIGRTにおける適切な線量管理が求められています。IGRTの方法の一つでありますCBCTの線量管理には、JIS規格に準じたCTDIファントムと電離箱線量計を用いた手法が普遍的ですが、この手法は多大な時間と労力を要するため、より簡便な手法が望まれます。

当院は平成30年12月に敷地内移転し、いわき市立総合磐城共立病院からいわき市医療センターへ名称を変更しました。平成31年1月より新病院での放射線治療が開始し、新設した放射線治療装置を用いたIGRTを行うようになりました。現在、毎日約10人の治療をCBCTで撮影し位置照合しています。当院のIGRTにおいてCBCTを使用する主な部位は骨盤部であり、今回の研究の撮影条件は骨盤部のメーカー推奨の条件としました。

電離箱線量計を用いた測定では、CTDI値を求めるために必要な5か所の測定点ごとに線量計の入れ替えを行います。放射線治療室には特有の迷路があるため、曲がり角を曲がって移動する必要があります。電離箱線量計を5か所入れ替えて、それを3回繰り返し、行ったり来たりするのは大変労力がかかりました。ガラス線量計は1度に5か所挿入することができるため、余裕を持って測定することができました。

今回の研究では、ガラス線量計と電離箱線量計によるCTDI値の相違が約40%となりました。詳細な原因は不明ですが、一連の測定回数が1回であったため研究手順が不十分、初めて使う電離箱線量計であったため正しい取扱でなかった可能性が考えられます。引き続き検討し、改善を図りたいと思います。

最後になりますが、福島県立医科大学附属病院の方々に来院いただき、持参いただいた線量計やファントムで測定したことは大変貴重な経験となりました。ご指導を賜りまして、心より感謝申し上げます。今後も研究を通じて臨床に活かせるよう努めてまいります。

# 学術奨励賞を受賞して

一般財団法人 脳神経疾患研究所 附属 総合南東北病院

秋山 俊一

この度は、令和元年度福島県診療放射線技師学術大会において発表を行った「当院でのドパミントランスポーターシンチグラフィにおける異なる線条体解析ソフトの比較」について、学術奨励賞を賜りましたこと、御礼申し上げます。

ドパミントランスポーターシンチグラフィ (DaTSCAN) は、脳内の黒質線条体ドパミントランスポーター (DAT: Dopamine transporter) を画像化する検査です。パーキンソン病を含むパーキンソン症候群やレビー小体型認知症の診断に有用で、2014年1月より発売が開始された比較的新しいSPECT検査となります。

診断方法は視覚的評価と定量的評価があり、定量的評価には線条体への集積率 (Specific Binding Radio: SBR) が一般的に用いられます。SBRを算出する解析ソフトは数社より提供されています。

当院で検査を開始した当初はある解析ソフトを採用していましたが、ノーマルデータベースが搭載されたバージョンアップを機に別の解析ソフトに

切り替えました。解析ソフトによってメーカー推奨撮像条件も異なるため、解析ソフト切り替えに併せて撮像条件も変更を行いました。しかし、撮像条件を変更させたことで果たして定量値への影響はどのようなか？経過観察での比較は問題ないのか？との単純な疑問から検討を行いました。

結果として、撮像条件を変更したことでの定量値には影響は見られず、今後の経過観察でも問題はないことを確認することができました。

今回の検討自体も日々の診療の中でのふとした疑問であり、特別難しいことを行っている訳ではありません。ですが、そのふとした疑問が改めて勉強するきっかけとなり、結果、自分自身の成長や患者さんへの良い医療の提供・還元につながっていくのではと思います。その取り組みの中でこのような賞を頂けたのは大変励みになります。改めて御礼申し上げます。

今後も研鑽に努め、日々精進していきたいと思っております。

# 学術奨励賞を受賞して

公立岩瀬病院

真船 浩一

この度は令和元年度福島県診療放射線技師学術大会での発表内容につきまして学術奨励賞を賜りまして感謝申し上げます。

本研究は、平成23年3月に発生しました東京電力福島第一原子力発電所の事故（以下、原発事故）当時、県内の診療放射線技師（以下、放射線技師）が行っていた活動について意識調査を行い、原子力災害時に必要となる放射線技師のスキルとは何かを探ることを目的としました。事前調査として県内3地域の放射線技師の方々にフォーカスグループインタビューを実施し、当時に行っていた原子力災害関連の活動や当時の思いを傾聴し、その結果をもとにアンケートを作成しました。アンケートは福島県診療放射線技師会の協力をいただき県会員全体を対象に実施させていただきました。この場をお借りしましてご協力いただきました全ての皆様に感謝申し上げます。

原発事故当時、県内の放射線技師が行っていた活動は、空間線量率測定、体表面汚染測定、甲状腺被ばく測定、ホールボディカウンタによる内部被ばく測定、被ばく相談、放射線の基礎知識等を伝える情報発信、遺体の表面汚染測定の7つでした。原子力災害での活動は日常業務と大きく内容が異なるため、様々な苦労や思いを抱えながら必死に取り組んでいたことが伺われました。しかし、これらの活動を放射線技師が担ったことで社会や住民の方々に放射線技師の新たな一面を示すことが出来たのではないかと考えます。

本研究では、原子力災害時に放射線技師に必要なスキルは2つあると結論づけました。1つは線量測定のスキル、もう1つはリスクコミュニケーションスキルです。

線量測定のスキルとは、電離箱式サーベイメータ・NaI (Tl) シンチレーションサーベイメータ・

GM式計数管式サーベイメータ等の操作や値の読み方、基準値を正しく理解する能力です。原発事故前、このスキルは原子力防災訓練や研修等で習得が可能でした。しかし、対象が原発の関係機関や一部の関係市町村に限られていたことが問題でした。

リスクコミュニケーションスキルとは、住民の多様なニーズに合わせて必要な科学情報の意味を伝えるための相互コミュニケーション能力です。原発事故前、このスキルの習得に必要な訓練や研修は殆ど行われていませんでした。被ばく相談や情報発信の活動はリスクコミュニケーションスキルが求められます。本研究では、被ばく相談や情報発信は難易度が高いと認識され活動実績は低い結果でした。しかし放射線技師が行う活動として重要度及び社会的貢献度が最も高い活動として認識されていました。放射線技師は住民にとって身近な放射線の専門家として見られています。その期待に応えるためにもリスクコミュニケーションスキルは必要だと考えます。

現在は、原子力防災訓練や研修の内容は見直され、原発事故前よりスキル習得の環境が整いつつあります。日本診療放射線技師会が認定する放射線被ばく相談員や、福島県立医科大学主催の福島災害医療セミナーなど原発事故後に新たに出来た認定や研修もあります。福島県放射線管理士部会でも皆様のご期待に沿えるような企画を提案していきたいと思えます。

最後に本研究に対しご指導を賜りました福島県立医科大学医学部 放射線健康管理学講座および放射線災害医療学講座の先生方に心より感謝申し上げます。これからも放射線技師として社会貢献できるように研鑽していきたいと思えます。

## 令和2年度 精度管理委員会 活動報告

公立相馬総合病院

大和田重義

令和元年から新委員体制となって2年目、2020年3月からの新型コロナウイルスの影響のために例年のような活動ができない中、精度管理委員会としては過去の活動の継続に努めてまいりました。

2020年ホームページからの貸し出し依頼件数  
地区別では県北3、会津1、県南5、浜6でした。

X線アナライザPiranha Premium 8件

X線アナライザPiranha657 1件

電離箱式サーベイメータ 6件

ホームページ貸し出し依頼とは別に、2018年から2台体制となった非接触型X線アナライザPiranhaは、県北、会津、県南、浜通り地区の順に3か月毎定期的巡回ローテーションで利用していただきました。

令和元年に4地区で保管していた4台のNaIシンチレーションサーベイメータの所在確認を行い、浜通り保管の1台が故障のため、理事会の協議をいただき廃棄とし、県北地区保管NaIを浜通り地区に移動し、今後は3台を会津、中通り、浜通りの3地区で保管し会員に利用してもらうこととした。

電離箱式サーベイメータに関しては、12月に新規に1台購入し貸し出し対応の充実を計った。

また、2018年に整備されたPiranha657用にMAS-2非接続式mA/mAsプローブを購入整備した。Piranha657での一般撮影系の測定においても、Premium同様、管電流測定ができることとなった。

Piranha657（技師会名称）はPremiumに比べ、どうしてもプローブの種類等もありPremiumに貸し出し依頼が集中する傾向にある。

Piranha657の会員利用普及のために、自作ではありませんがFPD防護板、測定規準Piranha台座、アクリル20mm3枚、RMI156ファントムを用意し、測定方法に関しては、乳腺画像分科会のご指導をいただきながら、Piranhaによる平均乳腺線量測定マニュアルを作成しFARTホームページ測定器貸し出しにリンクを掲載しました。また、管理パソコンには測定手順ビデオも用意しました。

自施設の計算によって算出された平均乳腺線量装置表示値の検証等にご利用していただきたいと思います。

【測定機器一覧2020】		
電離箱式サーベイメータ	4台	ICS-1323 1台（新規）、ICS-311 3台
X線アナライザPiranha	Premium (技師会名称)	Piranha657本体、Dose Probe線量プローブ CTドーズプロファイラ、透視用線量プローブ、輝度測定 プローブ、MAS-2非接続式mA/mAsプローブ
	657 (技師会名称)	Piranha657本体、Dose Probe線量プローブ、MAS-2非接 続式mA/mAsプローブ（新規）
NaIシンチレーション サーベイメータ	3台	TCS-172B
GMサーベイメータ	7台	TGS-133

# 令和2年度 調査委員会 活動報告

公立藤田総合病院

佐藤 佳晴

3月アンケート内容を最終決定し、校正、レイアウトを行い印刷の準備をしました。

4月アンケートを印刷し、日本診療放射線技師会または福島県診療放射線技師会に入会している人がいる施設を対象に郵送にて送付しました。

医療法施行規則の一部が改正され、令和2年4月より医療放射線の管理、記録の義務化が始まりました。これにより、福島県内の施設ではどのような準備や対応をしているかを調べるため、アンケート調査を実施しました。

5月返信されたアンケートを集計、解析を行い、メールで解析について話し合いました。122の施設にアンケートを送付し76の施設から回答がありました。回答率は62.3%でした。

当初は、11月14日、15日にコラッセ福島で開催される東北放射線医療技術学会大会に演題を出し発表する予定でしたが、新型コロナウイルス感染症が拡大したために、大会が中止になりました。

発表できなかった演題は、福島県診療放射線技師会のホームページに掲載します。

# 令和2年度 学術委員会 活動報告

竹田総合病院

鈴木 雅博

- 7月2日(木) 今年度の学術大会の方向性をメールならびにWEBフォームを用いて検討
- 8月3日(月) 委員会MLにて今年度の学術大会を「WEB開催」にて行うこととし、引き続きプログラム構成を検討
- 8月19日(水) 委員会MLにてWEB開催に必要な配信設備用機器を検討
- 9月1日(火) 各地区協議会に非接触型体温計購入を理事会に提案する事で決定
- 11月14日(土) 事務所兼研修センターにて委員会開催。WEB配信設備用機器のデモ実施。
- 12月7日(月) WEB配信設備用機器仕様を確定し発注
- 12月21日(月) WEBにて第2回委員会を実施。今年度の県学術大会WEB配信の詳細決議
- ・2月15日から2月28日までの2週間
  - ・会員向け特別講演
    - 〉日本診療放射線技師会上田会長
  - ・一般公開講演
    - 〉新医療系学部設置準備室久保先生
- 12月29日(火) WEB配信設備用機器納品

令和2年度 学術奨励賞・論文賞について

- 大原総合病院の村松氏の技師会誌(2020-08号)  
「胸部CTにおける被ばく低減機構 (Organ Effective Modulation) の出力線量と画質の評価」
  - 大原総合病院の村松氏の日本CT技術学会雑誌(2020-8巻)  
「超高精細CTのボウタイフィルタの違いにおけるX線線質の評価」
  - 大原総合病院の村松氏の日本放射線技術学会雑誌(2020-10月)  
「呼吸動態CTにおけるスペクトル解析を用いた呼吸周期の算出法」
  - 大原総合病院の村松氏の日本放射線技術学会雑誌(2020-11月)  
「Deep learning reconstructionを用いた超高精細CTにおける肺気腫定量解析 逐次近似応用再構成法との比較」
- =学術委員会にて審査を行い、理事会に報告しました。

会報原稿締め切り現在以降も開催に向け準備中

# 令和2年度 広報編集委員会 活動報告

総合南東北病院

鍵谷 勝

## 2020年度事業計画

### 1. 福島放技ニュース

#### ・取りまとめ担当

いわき医療センター 佐藤龍一

#### ・奇数月に発行（年6回）

・今年度に決定した編集担当の割り振りで編集を行う

・記事は、各地区の委員に協力を仰ぐ

・各勉強会等の情報が分かり次第、編集担当者に情報の提供をする。

### 2. 会報

#### ・取りまとめ担当

総合南東北病院 鍵谷 勝

南相馬市立総合病院 花井辰夫

いわき医療センター 佐藤龍一

#### ・12月に原稿依頼

・原稿締め切り令和3年1月末

・2月末までに各担当者による編集校正

・3月発行を目指す

### 3. 広報グッズ

各地域における行事（健康まつり、ピンクリボンなど）の際に配布する。技師会名入りのクリアファイルやポケットティッシュの補充を行う。

## 2. 「会報」の発行

2020年度末に発行

### 広報グッズ

今年度は各行事が中止または縮小のため購入を見送った。

### 担当一覧

「福島放技ニュース」担当

○佐藤 龍一 いわき医療センター

安藤 智則 大原総合病院

板橋 聡 有隣病院

大井 和広 小野田病院

風間 顕成 高田厚生病院

國分 美加 総合南東北病院

菅原 正志 福島労災病院

鍵谷 勝 総合南東北病院

花井 辰夫 南相馬市立総合病院

「会報」担当

○鍵谷 勝 総合南東北病院

○花井 辰夫 南相馬市立総合病院

阿部 雅浩 福島県保健衛生協会

元木 弘之 太田熱海病院

佐藤 龍一 いわき医療センター

## 活 動

### 1. 「福島放技ニュース」の発行

2020年 5月 176号

7月 177号

9月 178号

11月 179号

2021年 1月 180号

3月 181号

# 令和2年度 ネットワーク委員会 活動報告

ネットワーク委員会

菅野 和之

令和2年度のネットワーク委員会活動は例年通りのホームページの更新、メールマガジンの発行、各委員会及び地区協議会のメーリングリストの管理が主な活動内容となりました。

HPをはじめとしたNT関連の新規導入や更新作業も今まで積み上げてきたものが完成の域に達してきたのではないかと思いますので、今までのような大きな活動は必要なくなったのかなと思っております。これらソフトのバージョンアップ等は必要となりますが、新たなサービスの提供等が発生した場合には対応が必要となります。それまでは現状の維持が活動の重点項目かと考えています。

昨年は事務所も取得でき、それに伴うネット環境の整備等も考えられました、またWeb会議の導入やその運用についても検討されましたが、費用の問題等が発生したので、事務所のネット環境、Web会議ともに執行部および事務局での検討事項となりました。

また、今年度はコロナウイルス影響により委員会も開催できずにおりましたので、今後Web会議等の手段によって会の運営がなされていくものと思います。これらの状況下においても委員会の活動として会員の皆様に迅速に情報をお届けできるよう努めてまいります。

# 令和2年度 福島県放射線管理士部会 活動報告

星総合病院

佐久間守雄

令和元年に初めて検出された新型コロナウイルスが世界各地へ感染拡大し、部会員の所属する施設や福島県は、その対応に追われている。

そのため、例年開催していた放射線管理士セミナーは中止となり、福島県等が開催する各種訓練においても、縮小開催のため要請が無いものや、不参加と判断したものがあつた。

次年度の活動は、放射線管理士セミナーにおいてはWebツールなどを活用した開催方法も含めて検討していきたい。各種訓練においては、感染防止対策等の安全性を確認した上で参加していきたい。

## 【放射線管理士セミナー】

第7回福島県放射線管理士セミナー

開催中止

《概要》

福島県内外の放射線管理士および放射線管理分野に興味を持つ診療放射線技師を対象とし、日常業務関連や、福島県から発信すべきことをテーマとして開催してきた。令和2年度は残念ながら中止となったが、次年度はWebツールなどを用いた方法を含めて、開催を検討していきたい。

## 【原子力防災訓練】

令和2年度福島県原子力防災訓練

図上訓練：令和2年11月25日（水）

住民避難訓練：令和2年11月28日（土）

《概要》

東日本大震災後、県では、国、県、市町村及び

関係機関職員の原子力防災対応能力の向上を図るとともに、住民に対する原子力災害時取るべき行動の周知を目的とした訓練を平成25年より実施している。令和元年度は台風第19号の影響により中止となり、令和2年度は県庁と川俣町、桑折町で実施されたが、新型コロナウイルス感染症の影響により訓練の規模が縮小されたため福島県診療放射線技師会への参加要請はなかった。次回開催される際には、従前どおり協力していきたい。

## 【多数傷病者対応訓練】

富岡町 令和2年10月30日（金）

《概要》

多数の傷病者が発生する大規模災害を想定した傷病者対応訓練であったが、不参加とした。参加する際には、従前どおり協力していきたい。

## 【WBCによる内部被ばく線量測定事業】

田村市 令和2年10月31日（土）

田村市都路町 1名参加

《概要》

原発事故に伴う避難指示が解除された地区の住民を対象に内部被ばく線量をホールボディカウンタ（WBC）にて測定し、診療放射線技師が結果説明を担当した。

以上

# 令和2年度 災害対策委員会 活動報告

田村市立都路診療所

菅野 修一

令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響により、規模縮小や移動自粛のため不参加となるものが多かった。

## 【防災訓練】

### ①令和2年度福島県原子力防災訓練【規模縮小】

- ・令和2年11月28日（土）
- ・川俣町・桑折町

新型コロナウイルス感染症の影響により住民避難訓練は規模を縮小したため、福島県診療放射線技師会への参加要請はなかった。

### ②令和2年度多数傷病者対応訓練【見学のみ】

- ・令和2年10月30日（金）
- ・富岡町

大規模な事故を想定した対応訓練であったが、見学のみのため不参加とした。

### ③みちのくアラート2020

- ・実動訓練 令和2年11月12日（木）  
青森県（東通オフサイトセンター）
- ・図上訓練 令和2年12月16日（水）  
仙台駐屯地及び東通オフサイトセンター

いずれも新型コロナウイルス感染症の影響を考慮し、不参加とした。

## 【会議】

### ①令和2年度原子力防災訓練に係る関係機関会議

- ・福島県庁危機管理センター
- 参加要請がないため出席せず。

### ②危機対策連絡会（みちのくアラート2020実施に係る関係機関会議）

- ・令和2年6月3日（水）～4日（木）
- ・陸上自衛隊仙台駐屯地

新型コロナウイルス感染症の影響を考慮し、不参加とした。

## 【研修会】

以下の研修会の案内を行った。

### ①令和2年度第二回「原子力災害医療中核人材研修（福島県立医科大学）」

- ・令和2年10月7日（水）～9日（金）
- ・福島県立医科大学

### ②「福島災害医療セミナー2020」

- ・令和2年10月10日（土）
- ・福島県立医科大学（オンラインによる受講）

以上

# 令和2年度 生涯教育委員会 活動報告

大原総合病院

堀江 常満

## 講習会の運営

フレッシューズセミナー

令和3年2月23日（火曜日・祝日）10：00～16：30

ZOOMによるWEB開催

参加者：7名

年度のイベント開催最終盤に差し迫った2月23日の祝日にWEBでのフレッシューズセミナーを開催した。

新型コロナウイルス感染症に翻弄された年度ではあったが、担当としては、ギリギリまで集合型のセミナー開催を模索していた。残念ながら、年末年始に福島県でも流行期がきたことから、集合での開催を諦めWEB開催とし、講師陣、日程など調整した。

例年の講師ばかりでなく、新しい講師を迎え、時間のない中日程の調整、WEB開催のあり方を考えたが、最終的には当日ギリギリとなった。

冬季開催では、躊躇する参加者もWEB開催で交通状況に左右されることなく、会津やいわき、福島から7名の参加者がそれぞれに登録して、参加してくれた。

WEB開催で参加しやすかったという新人技師もいたことから良い反応も得られた。次年度は、WEB環境も整備されたことから、6月頃の開催を予定したい。

担当者が事務部門にいることから、診療報酬についても福島県独自のカリキュラムとして行った。来年度は、必須の科目が増えるので難しいかもしれないが、独自内容も盛り込みたいと考えている。

## 令和3年度の運営

- ・フレッシューズセミナーの開催
- ・告示研修の開催および運営（詳細は分かり次第周知させていただきます）

## 令和2年度 消化器画像研究会活動報告

保健衛生協会

遠藤 潤

### R2年度の消化器画像研究会開催について

福島県診療放射線技師会の消化器画像研究会は年2回開催された。

- ① 令和2年7月頃、下記内容での開催を予定していましたが、コロナ禍における感染拡大・自粛要請等を考慮し、開催を中止することを世話人会にて決定致しました。

担当世話人 会津地区・事務局

研究会内容 胃X線精度管理について  
消化器疾患  
(検査方法～治療法まで)

特別講演 膵臓疾患について

症例検討会 胃X線検査

- ② 令和3年2月上旬、下記内容での開催を予定していましたが、コロナ禍における感染拡大・自粛要請等を考慮し、開催を中止することを世話人会にて決定致しました。

担当世話人 県南地区・事務局

研究会内容 胃がん検診従事者講習会  
胃X線精度管理について  
大腸検査法  
(検査前～解析まで)

特別講演 大腸疾患について

症例検討会 胃X線検査

R2年度についてはコロナウイルス感染の終息に至らず、研究会開催するにあたり感染拡大等のリスクを考慮し年2回の開催を中止する事としました。

R3年度からはコロナ禍においても開催できるよう、ZOOM等のオンライン講習会等を検討したいと思います。

# 令和2年度 乳腺画像分科会 活動報告

福島県立医科大学附属病院

本田 清子

## 1. 第20回福島乳腺画像研究会開催中止

例年通り9月第1土曜日に開催へ向けて準備を進めていましたが、新型コロナウイルス感染拡大により今後の収束の行方をとらえにくく、今年度はやむを得ず中止とする事とした。

## 2. 各自治体での乳癌検診・読影会への協力

## 3. 今後

今年度は、新型コロナウイルス感染拡大のため研究会はじめ例年のような活動を行うことができなかった。

来年度については、今後の新型コロナウイルス感染状況を考慮しながら、研究会の開催方法や開催時期などの検討をしたい。

# 令和2年度 画像技術分科会 活動報告

## 福島県デジタル画像研究会

白河厚生総合病院

石森 光一

今年度はCOVID-19の影響および諸事情により研究会を開催できなかった。

全国の各研究会が現地参加型の研究会開催から自宅から参加できるWeb開催に大きく変化し、研究会の開催形態の変革の年であった。

当研究会もこの流れに乗ってWeb開催に切り

替えるべきであったが、流れに乗れなかった事に反省している。

COVID-19による猛威がいつ終息するのか不透明な状況下で、全国の各セミナー開催方式を参考にして当研究会の新しいスタイルを構築し、会員に対して有益な情報提供が出来るよう頑張りたい。

# 令和2年度 画像技術分科会 活動報告

## 福島県画像技術研究会

福島県立医科大学附属病院

村上 克彦

令和2年度福島県デジタル画像研究会

COVID-19の影響を鑑み、今回は開催中止と  
なった。

# 令和2年度 放射線治療分科会 活動報告

福島県立医科大学

加藤 貴弘

## ○第44回福島県放射線治療技術研究会

開催日時：令和2年10月31日（土）

12：55～17：00

開催場所：ZoomによるWeb開催

参加人数：43名

開催内容：

【ミニレクチャー】 13：00～13：30

座長 北福島医療センター 星野 勝

『線量処方“あれ”“これ”』

講師 福島県立医科大学附属病院

岡 善隆 先生

【会員話題提供1】 13：30～14：35

座長 太田西ノ内病院 小坂橋健一

『患者がFOV中心にSetupされていない場合のCBCTの被ばく線量測定』

福島県立医科大学附属病院 宮岡 裕一

『吸引式固定具は骨盤部の位置再現性を向上させるか』

福島県立医科大学附属病院 星 佑樹

『レクセルガンマナイフ「Icon（アイコン）」の紹介』

総合南東北病院 秋山 俊一

『リニアック更新の近況報告』

坪井病院 本間 優一

【会員話題提供2】 14：45～15：50

座長 福島県立医科大学附属病院

宮岡 裕一

『治療計画装置を用いた事前線量検証ってあり？』

福島県立医科大学附属病院 岡 善隆

『第3回IMRT治療計画トライアルに参加してみた』

太田西ノ内病院 庭山 洋

『Tomotherapyにおける乳房温存照射』

北福島医療センター 星野 勝

『小児陽子線治療の実績報告』

南東北がん陽子線治療センター 鈴木 正樹

【会員話題提供3】 16：00～17：00

座長 福島県立医科大学附属病院

長澤 陽介

『Short Farmer電離箱線量計について』

福島県立医科大学附属病院 長澤 陽介

『やっとはじめました前立腺IMRT』

福島労災病院 佐々木亮浩

『骨転移について』

白河厚生総合病院 鈴木 広志

『SRSSMapCHECKを使用してみました』

福島県立医科大学附属病院 大宮 雄大

今年度は新型コロナウイルス感染症の感染拡大を受けて年度初頭の開催を見送ることとなった。その後、対面での開催も含めて検討を行ったが、最終的に時期尚早との判断に至り、Zoomを用いたWeb形式での開催を行った。県内には放射線治療施設が全部で11施設あるが、全ての施設からの参加があり、大きなトラブルもなく無事終えることができた。

例年会員を講師として派遣している日本放射線治療専門放射線技師認定機構が主催する東北2地区（宮城・山形・福島）統一講習会は、今年度は福島開催の予定であったが、これも開催が見送られることとなった。来年度の開催については現時点で未定ではあるが、機構本部とも協議しながら開催する方向で検討していきたいと考えている。

放射線治療分科会としての今年度の研究会開催は1回に止まったが、来年度はこれまで同様、複数回開催を目指していきたいと考えている。

# 令和2年度 福島県MRI技術研究会 活動報告

太田西ノ内病院

新里 昌一

## 第20回福島県MRI技術研究会

日時：2020年6月13日（土）

福島県立医科大学 7号館2階大会議室

午前の部 10：30-13：00

午後の部 13：15-17：50

上記の日程で特別講演やシンポジウムを予定して進めて来たが、コロナウイルス感染拡大を考慮して当面延期とした。その後、世話人会を開催・協議し開催中止とした。

## 各地区での勉強会

各地区単位の勉強会もコロナウイルス感染を考慮して、全ての活動を自粛とした。

## 世話人会（Web開催）

日時：2020年11月13日

- ①今年度内に延期していた第20回開催福島県MRI技術研究会を断念する事を決めた。
- ②次回開催は2021年6月5日（土）で調整する。
- ③開催場所は福島医大駅前新学部キャンパス内で予定する。
- ④開催方法は従来通りの方法が基本（状況に応じWeb配信併用や講師のWeb発表なども検討）である。

⑤内容は第20回案（中止案）が基本として開催する。

⑥公立相馬の“芳賀正雄氏”を世話人に招聘：後日、芳賀氏より了解を得られた。

⑦大原総合病院から1名世話人を招聘：後日、高橋幸宏氏より了解を得られた。

⑧太田西ノ内の柳沼孝寿氏を世話人に招聘：後日、柳沼より了解を得られた。

⑨新里昌一代表が代表役を退任。代わって福島医大（清野真也氏）が代表役に就任した。

⑩事務局役を北福島医療センター（丹治 一氏）から福島医大新学部（久保 均氏）へ移譲した。

## 代表及び事務局の引継ぎ会議（Web開催）

日時：2021年1月中

Webで開催し、代表や事務局の業務の引継ぎを行った。

## 私事

長い間、この会の代表を務めさせていただきました。事務局の丹治さんを始め世話人の方に支えられてきました。この場を借りて御礼いたします。また、この会の発展をお祈りいたします。

# 令和2年度 CT分科会 活動報告

福島県立医科大学附属病院

村上 克彦

・令和2年度CTテクニカルセミナー世話人会

日時：令和2年5月22日（金）19：00～

場所：WEB会議

COVID-19の影響を鑑み、第2回福島県CTテクニカルセミナーは令和3年に延期とすることが決定した。

## 令和2年度 会津地区協議会 事業報告

会津地区協議会委員長 鈴木 雅博

・令和2年度 公益社団法人福島県診療放射線技師会会津地区協議会全体会

日時：令和2年5月23日（土）

18時00分～18時20分

場所：ホテル ニューパレス 3階 山桜

8名出席 委任状72名

○公益社団法人福島県診療放射線技師会

会津地区協議会全体会

～今後の予定～

・第102回会津画像研究会

日時：令和3年3月頃開催予定（日程は調整中）

・第2回 会津地区協議会委員会

日時：令和3年3月頃開催予定（日程は調整中）

・第1回 会津地区協議会委員会

日時：令和2年8月26日（木）

18時15分～19時00分

場所：竹田総合病院 総合医療センター1階

竹田ホール

9名出席

議題1. 県理事会報告

2. 令和2年度事業について

3. その他

# 令和2年度 県南地区協議会 事業報告

県南地区協議会委員長 鍵谷 勝

## ○県南地区協議会全大会（地区総会）

日時：2020年5月29日（金）20：00～

場所：公益財団法人 星総合病院

1階 画像処理室

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、書面開催となり、運営委員2名による「書面決議書兼委任状」の確認作業となった。

運営委員 星総合病院 続橋 順市

星総合病院 佐々木鮎美

県南地区会員数214名の内、参加者8名、委任状188名、計196名による決議。

第1号から第5号議案について賛成多数により全て承認された。

## ○県南サマーセミナー

新型コロナウイルス対策により中止

## ○県南地区新年勉強会

日時：2021年1月30日（土）13：30～17：00

場所：Web開催

参加者：会員50名、非会員3名、賛助会員10名

テーマ 「COVID-19に対する現在

－治療薬と核施設の取り組み状況－」

メーカー話題提供

### ◇COVID-19関連治療薬情報

新型コロナウイルス治療薬の現状

富士フィルム富山化学 野村 伸彦 様

### ◇COVID-19関連製品紹介

1) ハイドロエージェプラス (Hydro Ag+)

富士フィルムメディカル

白旗 朝生 様

2) 低濃度オゾン発生装置 エアネスシリーズ

酒井医療株式会社 刈谷 亮太 様

3) 紫外線照射装置 MoonBeam3

フジデノロ株式会社 生井 尊行 様

施設発表 - COVID-19に対する取り組み -

1) いわき医療センター 折笠 秀樹 様

2) 太田総合病院 太田西ノ内

孔 秀和 様

3) 会津医療センター 伊藤 光希 様

4) 白河厚生総合病院 石森 光一 様

## ○郡山市健康福祉「ファミリーフェスタ2020」

新型コロナウイルス対策によりイベント中止

## ○ピンクリボンin郡山2019

日時：2020年10月25日（日）10：00～16：00

場所：ポラリス保健看護学院及び星総合病院

新型コロナウイルス対策によりイベント縮小

県南技師会からの派遣無し

## ○第1回 県南地区協議会委員会

日時：2020年6月24日（水）午後7時

場所：星総合病院 2階 職員食堂

役員のみ集合、Webによるハイブリッド開催

## ○第2回 県南地区協議会委員会

日時：2020年11月17日（火）午後7時

場所：星総合病院 2階 職員食堂

役員のみ集合、Webによるハイブリッド開催

## ○第3回 県南地区協議会委員会

日時：2021年2月26日（金）午後7時

場所：Web開催

# 令和2年度 県北地区協議会 事業報告

県北地区協議会委員長 池田 正光

## ○2020年度県北地区協議会全体会（紙面上での開催）

日時：2020年5月8日（金）

17時30分～18時30分

場所：福島県立医科大学附属病院  
放射線部カンファランス室

「議決権行使書兼委任状」167名

- ・会員数は194名であり、過半数に達しているため「全体会」は成立
- ・福島医大の樵勝幸さん、濱尾直実さんが運営委員となり「委任状の確認作業」を行った。
- ・第1号議案～第5号議案まで、すべて「賛成」可決となった。

## ○県北地区協議会「地区たより」の発行について

第1号 2020年7月1日 発行

- ・県北地区協議会全体会の報告
- ・制度管理委員会からお知らせ
- ・COVID-19対応について（福島赤十字病院）
- ・一年を振り返って（保健衛生協会より）

第2号 2021年1月5日 発行

- ・施設紹介 柊記念病院
- ・コロナ禍の過ごし方について（会員より）
- ・新人紹介（3施設より）

## ○第1回県北地区協議会委員会（リモート開催）

日時：2020年11月12日（木）18時～19時

### 【協議内容】

- ・「県北たより」の発行について
- ・来年初めの事業について
- ・4月以降（新年度）の事業について
- ・会費納入のお願い

# 令和2年度 浜通り地区協議会 事業報告

浜通り地区協議会委員長 花井 辰夫

## ○浜通り地区協議会全大会

書面決議にて開催となる

日時：令和2年5月13日（水）18：00

場所：南相馬市立総合病院

議事：令和元年度事業報告について

令和元年度会計報告について

令和2年度事業報告案について

令和2年度予算案について

令和2年度委員変更について

会員総数 175名

委任状 153名

第1号から第3号までの報告事項

第4号から第6号までの提案事項 全て承認

## ○浜通り地区協議会委員会

第1回 令和2年5月13日（水）

Web会議

1. 浜通り地区協議会全大会書面決議結果
2. 浜通り地区及び県の役割分担について
3. 監査の名称変更について
4. 次年度の委員体制について
5. 今後の予定について

第2回 令和2年12月23日（水）

Web会議

1. 浜通り地区協議会全大会について
2. 来年度の委員・役員体制について
3. 県選挙管理委員の選出について
4. その他

第3回 令和3年2月24日（水）

Web会議

1. 浜通り地区協議会全大会について
2. 次年度の役員体制について
3. その他

## 当院における令和元年東日本台風被害と その後の復旧対応について

公益財団法人 星総合病院

続橋 順市

### 【はじめに】

当院は、令和元年10月12日に令和元年東日本台風により浸水被害を受けた。その当院が所在する郡山市においては、人的被害は死者6名、負傷者1名、浸水被害は推定最大約21000世帯に及び、その災害の規模の大きさを伺えるであろう。

本稿においては、当時の状況とその後対応について振り返り、それによって見えた課題について私見を述べていきたい。

### 【当時の経緯】

以下に災害当時の経緯を時系列に示す。10月12日当日は各部門においては、管理者が施設内または自宅待機となり、施設内待機者は全体で40名弱程度であった。放射線科においては当直者1名と自主避難者2名の計3名で対応した。

10月11、12日：緊急防災委員会開催。各部門における非常時対応の確認と事前準備（車両の移動や飛散する恐れのあるものの撤去等）。

10月12日

PM 5:30：阿武隈川水位3m

（氾濫危険水位7.9m）。

PM 7:50：阿武隈川水位5.2m。福島県特別警報発令。

PM 8:30：阿武隈川水位5.8m。

PM 8:56：1階患者垂直移送発令（34名）。

PM10:00：患者垂直移送終了。

PM11:20：病院敷地北側冠水。

PM11:40：病院敷地南側冠水により救急車受入れ中止。

10月13日

AM 0:00：1階病棟より物品移動。

AM 0:20：阿武隈川水位9.78m。

AM 1:30：1階フロア浸水開始。

AM 2:00：1階フロア床上浸水15cm。

AM 3:00：阿武隈川水位10m。

AM 4:00：福島県特別警報解除。

AM 8:00：緊急防災委員会開催。

### 【法人施設および放射線科の被災状況】

法人施設における放射線科以外の被災状況としては、看護学院、講堂、保育園、1階フロア事務設備、エレベータ11機、栄養科および厨房設備、薬剤分包機、トレッドミル、自動昇降寝台等が浸水による被害を受けた。

放射線科における被災状況としては、一般撮影装置およびX線発生装置各2台、CT装置2台、MRI装置1台、X線TV装置2台、乳房X線撮影装置2台、乳房用超音波画像診断装置1台、骨塩定量装置1台が使用不能となった。しかしながら、FPDや画像ワークステーション、検像システム等は垂直移動が可能だったので被災は免れた。また、2階以上に設置している核医学装置、血管撮影装置やハイブリッドOR、移動型X線装置には影響は認められなかった。

Fig.1に当院の被災状況を提示する。



(a)



(b)



(c)



(d)

Fig.1 (a),(b),(c),(d) 当法人施設の被災状況

**【法人および放射線科の被災後の対応】**

被災後の対応として法人施設と放射線科の対応を以下に示す。

(法人施設)

初動対応：職員の安全と被災の有無の確認を行い、その後法人職員および関連会社社員や建設会社社員の方々による、水の掻き出しと清掃作業を行った。

仮復旧対応：数機のエレベータを復旧させ、10月15日には1階総合受付や外来等が再開できるまでに至った。

復旧対応：1階フロアの床面の除菌や修築が現在も行われている。

被災後の法人施設の浸水対策としては、敷地内

建物周囲に防水壁を建立し、施設内重要設備入口には止水板を設置できるような改修を行った。

Fig.2に当院の浸水対策を提示する。



(a)



(b)



(c)



(d)

Fig.2 (a),(b),(c),(d) 当院の浸水対策

(放射線科)

初動対応：職員の安全と被災の有無の確認を行い、被災した職員に対しては自宅復旧作業を優先させ、その他の職員においては緊急招集を行い、エリアの清掃を行った。

仮復旧対応：各装置の被害状況の確認および救急体制の確立、同時に無被害装置検査への対応をおこなった。10月22日には全科2次救急対応が行えるまでとなった。

復旧対応：復旧計画および代替案の作成、更新装置の機器選定および導入を行った。

### 【放射線科の具体的な復旧対応】

放射線科の具体的な復旧対応をモダリティ別に示す。

(一般撮影系)

一般撮影装置およびX線発生装置、乳房X線撮影装置は早期に更新および修理の判断を行い、10月21日には稼働開始となった。

また、11月2日には乳房用超音波画像診断装置、12月14日には骨塩定量装置が稼働開始した。

(CT)

2台とも更新対象となり、内1台はリース契約であった為早期の発注となった。その後もう1台の機種選定を行い、1台目は12月20日に、2台目は12月27日に稼働開始となった。

新規装置導入までの期間の対応には、各種関係者の方々には多大なご協力を頂いた。当院理事長発信により災害派遣として、自衛隊富士病院より車載型CT装置を10月18日～11月5日まで借用する事ができた。

その後、新規装置導入まで放射線機器メーカーからトレーニング用CTを借用した。このことにより早期の2次救急対応の復旧に繋がった。



(a)

Fig.3に自衛隊車載型CT装置を示す。



(b)

Fig.3 (a),(b) 自衛隊車載型CT装置

(MRI)

被災後は装置の状態を確認し、一時的に消磁を行なった。その後床下の浸水状況を確認し、床下の修築が必要とされ、工期は二ヶ月以上が見込まれた。その為、装置においては修理ではなく機器更新という判断を行い、機種選定に取り掛かった。

その間検査においては、民間企業より車載型MRI装置をレンタルして対応した。装置においては、被災前まで使用していた装置の前型モデルであった為、操作面においては難渋するものでは無かった。

復旧期間は一番長期となったが、今年の3月9日に稼働開始となった。

Fig.4に車載型MRI装置を示す。



Fig.4 民間車載型MRI装置

(X線TV装置)

X線TV装置においては、以前より機器更新を検討していたので判断は早かった。復旧するまでの期間の検査対応は、初期は血管撮影装置で対応した。観血的検査室内での消化器系の検査を行うにあたっては、衛生的な面から躊躇もしたが、清掃

の徹底を行うことで了とした。その後、公益財団法人福島県労働保健センターよりX線透視装置搭載の検診車を借用したり、中古のII-DR式X線透視装置を導入して検査に対応し、1台目は今年の1月24日に、2台目は2月7日に稼働開始となった。

#### 【見えた課題】

(災害への慢心)

令和元年東日本台風の接近に伴い、2回の事前会議が行われた。しかしながら、その出席者の多くはきっと大丈夫だろうという慢心があったのではないかと伺える。会議では、高額医療機器への浸水を防ぐための土嚢等の準備を提言したが土嚢等の準備は無く、患者避難を優先させるとの判断だった。もちろん、患者避難は最優先ではあるが、高額医療機器への浸水の為、病院機能に大きな打撃を受けたのは確かである。いかに病院機能の損失を防ぎ、災害に備えるかが大切である。

また、浸水被害の特徴としては、災害発生時にはその周囲の道路も冠水し、当分の間現場にたどり着けないことである。なので、現場にいる者でその場の対応をしなくてはならない事になる為、人員不足により対応できない場面も発生する可能性もある。

やはり予期される災害に対しては慢心せず、災害防止のための対応と物資の準備をし、多めの人員の確保をして臨む必要があると考える。そして、予め地域のハザードマップを確認し、当該施設がどのような自然災害に見まわれる可能性があるのかを確認しておく事が重要である。

(浸水被害特有の課題)

浸水被害は地震被害とは違い、被災後の対応に厄介な面が認められた。それは水特有の性状により、どこにでも浸水してしまうという事である。また、浸水した水は汚水であり、そのまましておけば後に悪臭や腐食を発生させてしまう。これらを防ぐためには、OAフロアの部分においては数回の洗浄と拭き取りを行い、浸水した床面においては修築作業を行った。大規模だったのはMRI装置の床面である。MRI装置の床下にも汚水が浸水しているのが判明し、このままでは磁場均一性が保たれず、画像にアーチファクトが発生する可能性があるとのことで、全面修築を行った。

また、浸水被害は検査装置動作確認にも影響を及ぼした。検査装置やパソコン端末等は浸水してしまっているため、乾燥するまで通電確認ができず、動作確認に時間を要した。

当院は急性期病院であるため、主要装置においては24時間起動状態である。その為、浸水により一部ショートした機器もみられた。装置が浸水の危険がある場合には、早急の電源切断が必要であるが、MRIに関してはどこまで電源切断をして良いのか迷う可能性がある。

院内に浸水させない設備の整備や、浸水時の対応(パソコン端末の垂直移動や装置の電源切断等)を明確化しておく必要があったと考える。

(装置の修理か更新の判断)

この判断にも苦慮した。まず、装置が購入物件なのかリース物件なのかによっても対応に違いがでてくる。そして、購入物件においては消化減却がどの程度進んでいるのかも判断の一つとなる。更に、災害においては補助金や保険金等の兼ね合いもあり、当科単独では判断できない面も多々あり、早期の判断は困難であった。

また、一気に新装置への更新となるとその後の運用にも危惧した。担当者の専属配置や検査プロトコルの作成、当直業務の為のトレーニング等があげられる。

計画的な装置更新の立案と、常に最新装置の情報を入手しておくことが、急な不測事態時の判断の一助になると考える。

(診療開始への対応)

当院の浸水したエリアは1階の入院病棟と、外来診察室、放射線科、生理検査、調剤室、調理室等である。1階に入院した患者は2階以上の病棟へ垂直避難しており、2階以上の病院設備においては全くの無害であった。その為、無害であった装置を用いて入院患者への対応が必要となった。また、関連施設は無害であり、そこで発生する画像データについても対応しなけりなならなかった。そこで、新たな場所へ検像システムを移設し運用を開始した。

2011年の東日本大震災により被災した際は、病院機能がほぼほぼ停止したため復旧業務が主たるものであったが、今回は通常業務と復旧業務を同時並行で行うこととなり、人員配置や体制構築等

に苦慮するものとなった。

(BCPに基づく復旧対応)

BCPを構築するうえにあたってなにが重要かという、被災したその企業（病院）が地域から何を求められているかという事である。そして、その求められている事を復旧の最優先とする事が大事である。地域から何を求められているかも知らず、復旧の最優先事項を誤ってしまえば、その企業（病院）の復旧事態が大幅に遅れるか、または復旧できない可能性が発生すると考える。

先にも述べたが、当院は急性期病院であり、2次救急指定病院である。当院としては、この救急対応が地域から一番に求められていると考え、早期の救急輪番体制への復帰を目的に一般撮影装置とCT装置の早期稼働に努めた。その為、被災10日後には全科2次救急対応体制を整えた。

BCPは災害の種類、程度により内容は変わるものと考え、根幹部分は変わらないはずである。当該施設が地域から何が求められているかを把握し、それを基にBCPの構築をするのが重要であると考え。

#### 【まとめ】

本稿では、令和元年東日本台風による当院の被災状況と対応、そしてそれによって見えた課題について述べた。

今回の災害により、当施設は浸水により大きな被害を受け、その復旧作業には多大な時間を要し、浸水対策については現在も行われている。予期できる災害に対しては慢心をせず、十分な対策をとって臨む事が必要である。

放射線科の被害も甚大であったが、早期の病院機能の復旧には放射線科の復旧なくしては有り得ず、その為には多大な経費と様々な判断が必要となった。常日頃より放射線機器の購入形態や使用状況の把握と、急な不測の事態に対応できるだけの情報収集に努めるべきである。

当院は平成23年の東日本大震災による地震の被害と、令和元年東日本台風による浸水の被害を受けている。この災害の種類の違いにより、その後の対応に違いがみられ、BCPといっても単に一辺倒なものだけでは対応できないことも伺える。理想を言えば、災害の種類や程度によってBCPを構築していくのが良いと思われるが、現実的には難しい。なので、BCPの根幹である地域から何を求められているかを把握し、それを復旧の最優先に掲げてBCPの構築を行い、それを災害の種類や程度に臨機応変に変化させて対応していくのが現実的であると考え。

最後に、今回の被災からの復旧に多くの皆様のご協力をいただいたことに感謝を申し上げ、この稿を閉じたいと思う。

## 第9回公益社団法人福島県診療放射線技師会 定時総会議事録

1. 開催日時：令和2年5月30日  
13時～14時30分  
開催場所：郡山市西ノ内2-5-20  
太田西ノ内病院5号館  
2階会議室小

会員総数：685名

出席者数：522名（委任状出席者515名）

1. 総会成立：総会運営委員長元木弘之より、会員総数685名中522名の出席があり定款17条の定数を満たすので有用に成立している旨報告された。

1. 出席理事：代表理事新里昌一  
（議事録作成者）

1. 欠席理事：鈴木雅博、阿部郁明、大和田重義、堀江常満、菅野和之、池田正光、佐藤佳晴、鍵谷 勝、菅野修一、濱端孝彦、花井辰夫、森谷辰裕、目黒昭夫、松井大樹、佐藤龍一

1. 欠席監事：齋藤康雄、高橋宏和

1. 議 長

議長に照井英樹、大河内徹が選出され、満場一致により承認された。

議長は、本会は適法に成立したので開会することを宣し、直ちに議事に入った。

1. 議 題

### 第1号議案 公益社団法人福島県診療放射線技師会令和元年度決算報告について

財務担当理事代理で会長新里昌一から詳細な報告・説明がなされた。

議長は第1号議案について、これを議場に諮ったところ、質問はなく、満場一致で可決承認された。

### 第2号議案 公益社団法人福島県診療放射線技師会令和2年度事業計画案について

会長新里昌一から詳細な提案・説明がなさ

れた。

議長は第2号議案について、これを議場に諮ったところ、質問はなく、賛成多数で可決承認された。

### 第3号議案 公益社団法人福島県診療放射線技師会令和2年度予算案について

財務担当理事代理で会長新里昌一から詳細な報告・説明がなされた。

議長は第3号議案について、これを議場に諮ったところ、質問はなく、賛成多数で可決承認された。

### 第4号議案 規約追加について

会長新里昌一から災害支援規程（案）の目的や支援内容について、詳細な提案・説明がなされた。

議長は第4号議案について、これを議場に諮ったところ、質問はなく、満場一致で可決承認された。

### 第5号議案 会員除名について

事務局長代理で会長新里昌一から県南地区協議会会員林 裕人氏の会員除名について詳細な提案・説明がなされた。

議長は第5号議案について、これを議場に諮ったところ、質問はなく、満場一致で可決承認された。

### その他

質問① 医療体験セミナーへの高校生の参加は検討出来ないか。

会長新里昌一：医療体験セミナーは全県単位の中学生を対象に開催している。3年前より参加しているが、昨年度は主催者側の判断で中止となった。技師会だけの意向では難しいと思うが、福島県立医科大学新学部で同様のイベント等があれば協力する。

質問② 予算に余裕があれば、PPEを技師会で

購入し各病院に配布するのはどうか。

会長新里昌一：今年度はCOVID19関係で研究会中止も相次いでいる。予算も含め理事会でも検討する。

質問③ 資料もCDではなくオンライン（ホームページ、メール等）でも良いのでは。

会長新里昌一：全ての会員がネット環境にあるか不明であり、現状のスタイルを続ける。今後については検討する。

質問④ 山形県技師会では、文章やハガキ等を廃止したときいている。福島県でも役員の手間を減らしたり、会費等の見直しにより会員の人数が増える事を願う。

会長新里昌一：今後検討する。第10回東北放射

線医療技術学術大会において、開催案内・演題募集のハガキを廃止したが、今年度は中止となった。山形県や東北各県からも情報を集めて、良い部分は取り入れて行きたい。先日、理事会においてWeb会議テストを行った。理事会がWeb開催等になれば、時間的にも経費的にも有用だと思う。現状では、電子的承認（メール）の補助的な使い方を考えている。

他には意見等の発言はなく、議長は以上をもって本日の議事を終了した旨を述べ、14時30分閉会を宣言した。

## 令和2年度 第1回理事会議事録

日 時：令和2年6月4日（木）

開催方法：メール配信で開催。

電磁的承認にて決議。

令和2年度第1回定時総会 1) 事業計画について、は6月5日までにメールで理事全員から電磁的承認済み。2) 協議事項は、メールを介し提案した議題に対する主な意見をとりまとめている。内容によっては継続審議の事項もある。3) 報告他については基本的に資料を確認していただきたい。

理事：新里昌一（会長）、鈴木雅博（副会長）、阿部郁明（副会長）、大和田重義（副会長）

堀江常満、菅野和之、池田正光、佐藤佳晴、鍵谷 勝、菅野修一、濱端孝彦、花井辰夫、森谷辰裕、目黒昭夫、松井大樹、佐藤龍一

監事：齋藤康雄、高橋宏和

指名：遊佐 烈（事務局長） 笹川克博（事務局員） 本田清子（事務局員）

### 1) 令和2年度事業計画について

#### ①各委員会等の事業計画

○学術委員会（鈴木理事）

県学術大会は、TCRT2020があるため演題を募集しての形式ではなく、講演会・シンポジウム形式での学術大会として開催を行う予定となっていた。新型コロナの状況ならびにTCRT2020・日本診療放射線技師会学術大会の開催の有無に大きく影響する事から、現時点で具体的に決まっている事は何もない。今後の状況を確認しながらの委員会活動になる。

#### ○調査委員会（佐藤理事）

線量管理に関するアンケートを実施。集計後、分析を行う。結果は県技師会ホームページ上にて報告する。

#### ○災害対策委員会（菅野理事）

原子力防災訓練関連および参加予定の研修会について、新型コロナウイルス感染拡大を考慮し機関会議等は延期・中止となっている。

また例年、都路町で実施されていた「WBCによる内部被ばく測定・結果説明会」について6月は実施せず、10月の実施のみとなる予定。

#### ○精度管理委員会（大和田理事）

・3月～5月の期間、測定器貸し出し依頼が無かった。

・Piranha657の普及策として、測定備品（自

作)使った平均乳腺線量の測定のプロ案を進めていきたい。第1回理事会での承認を得た場合、技師会ホームページ測定器貸し出しのサイトへの掲載と放技ニュースへの記事の掲載を検討している。

○生涯教育委員会(堀江理事)

新型コロナウイルス感染拡大の懸念から第10回東北放射線医療技術学術大会の中止。各種研修会についても開催を見合わせている状況。

○総務企画委員会(新里会長)

放射線安全管理の「研修DVD」の作成およびその活用を提案。

第11回総会時に10周年・記念誌発行となるので広報編集委員には準備をお願いしたい。

○広報編集委員会(鍵谷理事)

会長からの提案された事業計画を受けて。研修DVD作成にあたり、ある程度の機材、人材が必要となる。一般的なものであれば広報編集委員会が製作することは可能だが、活用の対象者が会員以外にも及ぶのであれば相当の準備が必要と考える。

## 2) 協議事項

### ①県定時総会の結果について

新里会長：第1号議案から第5号議案は賛成多数や満場一致で承認された事を報告する。

(抜粋)全ての議案を可決している。詳細は下記の通り。

定時総会での票の内訳では、会員総数685名 出席者524名 委任状出席者517名

第1号議案 賛成524票 (満場一致)

第2号議案 賛成523票 修正1票 (賛成多数)

第3号議案 賛成523票 修正1票 (賛成多数)

第4号議案 賛成524票 (満場一致)

第5号議案 賛成524票 (満場一致)

### ②フレッシューズセミナーの延期について

新里会長：フレッシューズセミナーの開催は、通常6月の日曜日に開催している。JARTから、12月以内での開催の通達があるが柔軟に検討する。堀江理事と相談して、延期を検討しているが異論がなければ了承して頂きたい。

\*6月5日までにメールにて理事から電磁的承認済み。

### ③学術助成金について

鈴木理事：提出された予算書について。予算書内訳「JSCT2020 ¥15,000 学術発表 旅費」は実験ではなく結果報告なので過去の審査結果同様に否認に相当すると考える。また、校正費用の部分に関しては助成の対象となるか判断が難しく、この2点に関して協議していただきたい。

助成の定義としては

「個人・各グループでの研究に対して、実験材料等(旅費・通信費等を含む)の一部または全部を助成」とある。

新里会長：もとはファントム等の実験材料費に充てることを想定している。旅費・通信費は含まれるが英文校正となると難しい判断。前回審議との整合を図ると否認になる。出来れば申請承認で研究が進めば理想の形である。

\*本件については学術助成金請求の指針から外れるものとして判断し、6月5日までにメールにて理事から申請を認めないものとする事で電磁的承認済み。

### ④会報の広告掲載料の外税について

鍵谷理事：会報の広告掲載料について、従来は内税にて徴収していた。消費税が上がっている状況や計算上も困難であり、当会の財政を考慮すると税別で徴収すべきであると考え提案する。阿部理事：公益法人のため消費税は頂いておらず、記載は不要かと思う。

### ⑤来年度の会報について

新里会長：会報の中で、県学術大会の後抄録は多くの部分を占めている。TCRT2020も微妙だが、県学術大会も講演のみとなると大幅にページが減少する。今回の総会で規程の追加もあり、平成25年から改正版を会員に配っていない。別紙との意見もあると思うが、次回の会報に入れたいと思う。

### ⑥その他(研究会後援・賛助会員の検討等)

新里会長：研究会後援規程の作成を検討している。昨年度の消化器全国大会への助成については、経費等が不明瞭なまま助成をした事が問題視された。結果的にCOVID19で中止になり助成金は返金されたが、基準(規程)の作成を検討。また、賛助会員への一定の優遇措置について検

討を開始する。

新里会長：研究会後援（助成金）や賛助会員がプラスになる企画等は、継続審議とする。

大和田理事：NaIシンチレーターの修理について。有事の際に必要なのは、電離箱ではないかと思う。電離箱を所有していない病院もあり定期的な貸し出し依頼がある。使用頻度の低いNaIの修理費が高額なので様子を見た方が良くのではないか。

他の測定器同様、医大の方で管理してもらえれば、使用頻度として問題ないのではないか。

新里会長：修理費用が高額であること、使用頻度が少ないこと等の理由を踏まえ一旦保留とする。まずは電離箱の購入を検討していく。

大和田理事：NaIの管理運用につきまして故障1台の修理を保留とし、会津、中通り、浜通りの3地区で3台運用と協議されているがNaIは各地区協議会委員長管理と把握している。

中通りの2台は、県北地区福医大、県南地区総合南東北病院で管理されているということで県南、県北地区でどちらか1台を管理し、浜通り地区協議会委員長のところにと考えている。

### 3) 報告他

①日放技からの報告・理事会等（第1回Web会議開催）

②GEヘルスケアファーマ株式会社の賛助会員入会について

3月にGEヘルスケアファーマ株式会社 成谷光造氏の当会への入会申し込みがあった。

③みちのくALART第1回調整会議参加依頼  
・みちのくALART2020第1回調整会議は中止。

④JARTとの学術業務委託契約書

⑤第10回東北放射線医療技術学術大会について  
第10回東北放射線医療技術学術大会（TCRT2020）は中止。今月中旬に、大会役員会をWeb開催して、開催日時や開催方法等について技師会・技術学会伴に話し合う予定。

⑥その他

・新人2名と転入者1名に関して、理事全員から承認がなされた。

・会津地区選出の選挙管理委員として吉村弓子会員（会津西病院）が承認された。

・令和3年度春の叙勲候補者とし平井和子氏が推薦されたことが報告された。

以上

## 令和2年度 第2回理事会議事録

日 時：令和2年7月17日（金）

17時00分～17時50分

開催方法：会長が電子メールにて事前に議案を提案し、令和2年7月17日17時から17時50分までのWeb会議で当該議案について協議し採決を行った。

出席理事：新里昌一（会長）、鈴木雅博（副会長）、阿部郁明（副会長）、大和田重義（副会長）

堀江常満、池田正光、佐藤佳晴、鍵谷勝、菅野修一、濱端孝彦、花井辰夫、森谷辰裕、目黒昭夫、松井大樹、佐藤龍一、菅野和之

出席監事：齋藤康雄

指名参加：遊佐 烈（事務局長）

欠席監事：高橋宏和

議事記録：浜通り地区

### 1) 事業計画について

①各委員会等の事業計画

○学術委員会（鈴木理事）

県学術大会は、当初の計画通り、一般演題は募集せず、講演会・シンポジウム形式での学術大会として開催する予定である。ただし、新型コロナウイルスの感染状況を鑑みWeb形式での開催を模索中である。今後は方法や内容など具体的に決めていく予定である。

○災害対策委員会（菅野理事）

原子力防災訓練関連について

みちのくアラート2020 9/2～3の第

2回調整会議は欠席（報告済み）。

各種研修会の案内

1) 令和2年度第2回「原子力災害医療中核人材研修（福島県立医科大学）」

開催日：令和2年10月7日～9日

会場：福島県立医科大学

2) 福島災害医療セミナー2020

開催日：令和2年10月10日

会場：福島県立医科大学（オンラインによる受講）

JARTの被ばく相談担当者の委嘱期間が終了となり、今年度以降委嘱は行わなくなる。

○精度管理委員会（大和田理事）

現在 Piranha Premium は会津地区、Piranha657は、いわき地区を巡回中である。

令和2年になり、ホームページからの貸し出し依頼は、電離箱が1件、Piranhaが3件である。Piranha657の普及案として承認された平均乳腺線量のPiranhaによる測定の準備が整い、アクリル板・自作保護版等を準備しPiranha657にセッティングし、いわき地区に巡回させた。誰でも測定可能なように、1) 測定の流れ、2) 測定シート、3) 測定時のOceanの使い方を説明した（MP4動画）を準備した。放技ニュースにも掲載依頼し、ホームページの掲載は現在依頼中である。

○ネットワーク委員会（菅野理事）

HPの更新作業は、順調に進んでいる。共有ファイルへのアクセスできなかった理由は、システムバージョンアップに伴い不具合が発生した事による。復旧が遅れ迷惑をかけたが現在復旧している。ただしデータは元通りになってはいるが、リンク設定についてはリンク先が切れているので、再度リンク設定をお願いしたい。HPに設置してある業務用受信専用メールアドレスに対し大量のスパムメールが送りつけられている。対策としてメールアドレスをgyoumu@////→gyoumu2@////に変更した。現在スパムメールは見られない。原因は、このアドレスから外部への発信はないので、案内等を送ってきた発信先会員PCが監視されているものと考え。今後再発

するようであれば調査したい。

○調査委員会（佐藤理事）

線量管理に関するアンケートを回収したので、集計・解析を行っている。

○総務企画委員会（新里会長）

フレッシュアーズセミナーであるが、新潟等ではWeb開催をしたとの事。それも踏まえて生涯教育と相談して行きたいと考えている。

②その他

○会津地区協議会からの報告（鈴木副会長）

会津地区協議会での活動は行っていない。また、共催として会津地区協議会の事業として毎年行っている会津若松市健康まつりの今年度の開催は中止となった。今後は、感染予防対策を講じて、8月以降に会津地区協議会、9月以降で開催を見送っている会津画像研究会を行いたい。

2) 協議事項

①Web開催 有料版の購入について

新里会長：第1回理事会の前には、Web会議のテストを行い概ね良好であった。第2回理事会も電磁的承認を行うが補助的にWeb会議を併用し開催する。現在は、各研究会も中止や延期になり、各メーカーからのWebセミナー等が盛んに行われている。県技師会としてもパラダイムシフトを行い、新しい活動を模索して行きたいと思う。

県北MDCTやFANTAでも、Webでの動画配信を検討していると聞いており、県技師会の学術大会でも、Web配信も視野に入れて検討していただきたい。

この新しいツールであるZOOMやWebexの有料版を使用し、新しい活動につなげたいと考え購入を提案しますので、ご検討いただきたい。現在ZOOM無料版は使用時間40分の制限、Webex無料版は7月1日から使用時間が50分の制限となっている。またWebex有料版は録音内容文字変換機能が付くため、議事録の作成には大いに役立つと考える。有料版ではWebex（月約1,500円+ $a$ 程度）、ZOOM（月約2,000円+ $a$ 程度）である。

新里会長：1点購入すれば各種委員会、各地区協議会等での使用が可能である。

鈴木副会長：承認されれば すぐに購入するのか。

新里会長：購入の時期は、今後検討する。(名義、購入金の支払いを含め)

鈴木副会長：購入の方向で承認するということがよいのか。

阿部副会長：有料版はもう少し様子を見てから購入を決めた方がよいと思う。現状、無料版を有効に使用し対応すれば良いのではないのか。

菅野修一理事：地区協議会の委員会等で利用させていただけるとありがたい。

森谷理事：理事会だけで使用するには少々もったいない気もするので、他の委員会会議や勉強会・講習会などでの使用も検討してみてもいいか。

菅野和之理事：有料版の購入については、もう少し様子を見てから購入してもよいかと思う。平常に戻るなら購入は必要ないし、収束が見込めない状況になってから購入を決めてもよいかと思う。

濱端理事：有料版購入についてですが個人的には何がベストか分からない、まずは1年間有料版をトライアルしてみたい、という理由で賛成である。

新里会長：承認いただければ、今後使用方法等も考えて検討して頂きたい。

**承認：14名、保留：2名 にて承認。**

②Web開催の旅費等の支払いについて(各地区協議会を含む)

新里会長：Web会議のみの場合は日当を考えていなかった。(TCRT2020の企画委員会、技術学会等でもWeb会議・通常会議は、日当はない。)しかし、出席者とWeb参加者の混在する会議があった場合、出席者のみに日当支払の事態になる。Web参加者に対して会議の時間を拘束した分として日当支払は妥当と考える。しかし、現在そのような規定はないため、定款「旅費規程附則の第2条に第5項を追加して、(5. 本会の用務として、移動を伴わないWeb会議等の場合には第2条第2項を準用し、旅費を除く費用代償の額1日につき1,000円を支給する。)」を追加したい。

新里会長：Web開催の理事会は一時的と考える

が、現状では10名以下の集まりの規制が継続しており、10月までは開催できない状況である。

遊佐事務局長：Web会議で日当として1,000円支給する事は大丈夫なのか。勤務時間内の会議開催となると、手当の2重取りと思われる可能性がある。開始時間を18時からの開催とすると勤務時間外となり旅費からの規制も外れる。

齋藤監事：あまり詳しくはわからないが、何らかの手当では必要と思う。どの程度認められるのかわからないので、会計士へ相談してみてもいいか。

遊佐事務局長：第2条に第5項を追加すると、定款に記載され後から削除するのも大変である。Web会議は緊急的なものであり、いつまで継続するかを考慮した場合、第5項を追加せずに名目を変えれば良いのではないのか。Web会議参加費とした名目で良いのか高橋監事に確認してはどうか。

新里会長：第5項に記載せず、確認した内容で可能な場合には、支給する事に変更する。

遊佐事務局長：日当を支給する場合、振込となるため振込手数料がかかってしまう。

当分の間、会うことができないためどうするのか。

新里会長：当面、私が預かり後日まとめて支給するのはどうか。日当支給の方向で考えている。この議題は保留とし、高橋和孝会計士に確認した結果を理事の皆様にもメールにて再提示し、再度承認してもらう。

鈴木副会長：監事・会計士に確認の上、会員に説明が出来るよう、問題がない形で支給できるようにして頂きたい。

新里会長(8/1メール)：理事16名中、15名が投票 15票中、支払わない11票、支払う2票、保留2票となり、**理事会ではWeb会議の日当を支給しない事と決定する**

③COVID19感染対策に関する基本方針について

新里会長：技術学会(5月27日改訂版参照)では基本方針があるが、技師会としては無い。各地区協議会でも対応がまちまちなので統一したい。今後JARTが方針を提示すればいいが、それまでは技術学会の基本方針を踏襲したい。

JARTの次回理事会(7月4日)にて提案さ

れるので方針の修正等あれば随時検討していきたい。

**承認：15名、保留：1名 にて承認**

④レーザープリンター故障のため購入について  
(緊急購入)

新里会長：事務局で使用中のレーザープリンターが故障し、会計業務等に支障があるため緊急購入をした。事後承諾となるが了承してもらいたい。

**承認：16名 (全会一致にて承認。)**

⑤ネットワーク委員の変更について

知々田勝之(鹿島厚生病院)から、荒井孝嗣(鹿島厚生病院)への委員変更の承認を頂きたい。

**承認：16名 (全会一致にて承認。)**

⑥事務所購入について

新里会長：郡山市内の物件2か所について、鈴木副会長と遊佐事務局長で視察してきた。

1件目は、大槻町原ノ町の郡山中央スマートインター近くの2階建て10台駐車可能。ただし、内外装ともリフォームが必要。1,680万円だが値引きも出来そうである。

リフォーム代込2,000万円以内で可能。事務所物件としては申し分なく、2階の住居部分はCOVID19が収まれば、各種集会また動画撮影場所としても利用可能である。

2件目は、郡山市内の郡山東高校前のワンルームである。作りはしっかりしているが、リフォームは必要である。駐車場は4台可能であり、価格2,200万円です値引きは無い。

WGとしては、1件目の物件の購入を希望する。(次回9月の第3回理事会まででは、他者に購入契約されてしまう可能性があるため、今回の理事会で承認をいただきたい。)

遊佐事務局長：1件目の物件については、修繕箇所(給湯設備、水道の確認、1室壁のクロス張替も必要)も含めたリフォーム代を、一度業者に見積りを取る必要がある。全て含めて2,000万円以内で出来る様に、早く進めていった方が

良いのではないかと。

諸経費は、手数料63万+登記移転費用15~20万+火災地震保険25万程かかる。ただし、ソファ、カーテン等は、別会計で予算がある。

新里会長：早急にリフォーム代の見積りを取り、総額2,000万円以内に収まるようにしたい。

松井理事：ハザードマップ上は、問題の無い土地であるのか。

濱端理事：ハザードマップ確認したところ問題はない。

鈴木副会長：一緒に見学したが、郡山中央スマートインター降りて2分程度なので交通のアクセスは良い。早めの決断が必要である。

**大槻町原ノ町の事務所物件の購入について**

**承認：16 (全会一致にて承認。)**

### 3) 報告他

①日放技総会の報告

第81回定時総会において、中澤(前)会長が退任し、上田克彦(新)会長が就任した。

②第10回東北放射線医療技術学術大会役員会(Web開催)について

新里会長：第10回は中止となる。来年度に再度福島開催を予定しているが、開催方法は検討中である。11回として10月末に開催予定であるが、コロナ禍での開催は難しい。(予約がとれない、ソーシャルデスタンスが取れない)また、Web開催の方が参加者が増える傾向にあるため、TCRT2021としてWeb開催も含むハイブリッド開催を模索している。今年度の日放技全国学術大会(宮城)や他のWeb開催も参考に進めて行きたいと考えている。

③POSS電子申告について

6月27日に電子申告を完了した。ただし、遊休財産が増えており、その影響か会計判定結果が「不適合」になったが申告は通った。今後の課題である。

以上

# 令和2年度 第3回理事会議事録

日 時：令和2年9月18日（金）  
17時00分～17時50分（Web会議）  
開催方法：会長が電子メールにて事前に議案を提案し、令和2年9月18日17時から17時50分までのWeb会議で当該議案について協議。9月27日までにWeb入力にて電磁的に採決を行った。  
出席理事：新里昌一（会長）、鈴木雅博（副会長）、阿部郁明（副会長）、大和田重義（副会長）  
堀江常満、池田正光、佐藤佳晴、鍵谷勝、菅野修一、濱端孝彦、花井辰夫、森谷辰裕、目黒昭夫、松井大樹、佐藤龍一、菅野和之  
出席監事：齋藤康雄  
指名参加：遊佐 烈（事務局長）  
欠席監事：高橋宏和  
議事記録：会津地区

## 1) 令和2年度事業計画について

- ①各委員会等の事業計画
  - 財務委員会（阿部理事）
    - R2年度会員状況
    - R2年度会費納入状況
  - 学術委員会（鈴木理事）
    - 県学術大会に関して
    - WEBでの開催に向けてプログラム構成を検討中。
    - 一般公開講演配信
      - ・感染症関連・災害関連・医療被ばくに関して・新学部の広報
    - 会員向け講演配信
      - ・DRLs2020・COVID-19関連・水晶体の等価線量限度の引き下げ・改正医療法施行規則に基づく医療被ばく適正管理等に関してなどで検討している。
    - 災害対策委員会（菅野理事）
      - ①田村市内部被ばく測定事業（受託事業者：原子力安全研究協会）  
田村市都路町住民を対象にホールボディカ

ウンタによる内部被ばく測定を実施する。結果説明の担当者を福島県診療放射線技師会へ依頼したい旨の連絡があった。当初は菅野宛ての依頼であったが、他の会員にも参加して頂きたく、日程が確定次第、案内する予定である。

実施予定日：令和2年10月～11月の土曜日、1日間

※日程は現在、田村市保健課と調整中である。

実施場所：田村市都路町地見城多目的集会施設（集会所）

依頼人数：1名

### ○精度管理委員会（大和田理事）

①現在、Piranha Premiumは会津地区、Piranha657は浜通り地区を定期ローテーションで巡回使用されている。

ホームページから等の巡回以外の貸し出し依頼は、Piranhaが4件、電離箱式サーベイメータが4件である。

②Piranha657の普及案として、7月中旬から平均乳腺線量の測定をスタートさせている。マニュアル通りに順調に測定ができた施設、また電話対応で説明補足を行った施設もあったが、無事、平均乳腺線量の装置表示値をPiranhaによって検証することができた。

### ○ネットワーク委員会（菅野理事）

●HP更新作業は順調に行われている。

●事務所ネットワーク環境整備については、NTTフレッツ担当者から提案をもらった。詳細は別紙「フレッツ光概算工事費等のご案内」を参照されたい。この概算工事費は、こちらの規模・使用頻度・予想される利用状況等を参考にしている。また、書面中に電話は光電話になっているが、通常の電話では工事費が11000円、月々の使用料が2660円となる。

## 2) 協議事項

①Web開催有料版の購入について

第2回理事会で有料版の購入について承認頂いた。運用について執行部で話し合い、コセキにWebex導入に関与してもらう事となった。現在、交渉中で、法人契約で年間12万円程度。W法人有料版については、CISCO版とSONY版の2種類がある。CISCO版は、2年目からも121,517円で継続される。

SONY版は、初年度は9月中だとキャンペーン金額で128,700円。2年目以降は106,590円になる。2年目以降も使うならSONY版が良いのでは。

ライセンスは1つだが、開催時間が重ならなければ複数の会議を計画しても大丈夫との事であるが、会議開催については管理が必要となる。

運用サポート（保守料金CISCOが英語表記のため必要になるとの事。ZOOMは、公的機関ではセキュリティーに問題があり使えないとの情報。

**=全員賛成により承認**

### ②福島県内のDRL値・標準的な被ばく線量の把握（管理士部会との共催）

今年度は、COVID19の影響で多くの事業が行えない状態ではあるが、患者からの被ばく線量揭示の依頼があり、星総合病院と連携し対応した。この経験により、県内で基準となる被ばく線量（胸部0.05mSv等）を提示する事が有用であると思われる。実際の値は、各施設での測定が基本となるが、概ねの値を示す事が出来ればと考える。

A. 県技師会内でこのプロジェクトを行う旨の周知と協力依頼。B. 各施設で適切に算定できるようにマニュアル作成。C. コストをなるべく低く抑えるため、4協議会を経由し、メールにてアンケートのやり取り。多くの施設は、DRL検証はこれから取り組むところだと思われる、その後にアンケートを行うと、今年度末位の完成になる予定である。

**=全員賛成により承認**

### ③事業計画及び予算執行について

#### ③-A 非接触型体温計の購入

研究会や会議等で必要となることから、各地区協議会に非接触型体温計を購入したい。

**=全員賛成により承認**

#### ③-A 録画配信機材の購入

WEB開催に必要な器材の構成を検討し、見積もりを依頼した。機材に関しては、11月14日に委員会を開催してデモを予定している。次回理事会にて購入是非の検討では、開催までのスケジュール上、間に合わない事からデモンストレーション後、問題がなければ、提案を受けている構成を基に必要な機材を購入したい。

**=全員賛成により承認**

#### ③-B 電離箱・プローブの購入と校正

##### ①電離箱ICS-1323 1台拡充購入（案）

昨年すべての測定器を調査した。本来は4台の電離箱となっているが電離箱1台が不明。貸し出しについては継続して依頼がある。メーカー確認時、最大10Svまで測定できるICS-1323しか現在では販売されていないとの事で、電離箱ICS-1323 1台の購入を提案する。

##### ②電離箱の校正（案）

令和元年度第4回理事会にて校正に関し、原則として電離箱の校正は1年に1台との事で、現在校正年月日が1年以内のものは1台である。現状を改善するため最終校正年月日2017.4.27 R01582の電離箱の校正をお願いしたい。

また、今後は、会員のために、校正が1年以内の電離箱が常に1台ある状態を保ちつつ、年度を見ながら3台の校正期間を微妙に調整しながら進めてまいりたい。

**=全員賛成により承認**

##### ②Piranha657のMAS-2プローブ拡充（案）

平均乳腺線量の測定を提案し、現在ようやく稼働しているが、一般撮影装置を測定して管電流の状態を把握出来ず、Piranha657に非接続式mA s プローブの拡充を提案する。

**=全員賛成により承認**

#### ③-C パネルの更新

現在所有するパネル内容が古く、使えないとの報告があった。毎年2分科会程度に依頼しポスター化したいと考える。

**=賛成多数により承認（1名保留）**

④-D 定款・諸規定集の発行

定款・諸規定が更新されており、最新版を会員に配布したいと考える。定時総会後に、事務所を郡山市に変更後に発刊する。

＝賛成多数により承認（1名保留）

④その他

⑤-A 学術奨励賞・論文賞

学術委員会にて審議の結果、下記2論文に対して「学術奨励賞・論文賞」として提案する。

●大原総合病院の村松氏の技師会誌（2020-08号）への投稿論文

「胸部CTにおける被ばく低減機構（Organ Effective Modulation）の出力線量と画質の評価」

●大原総合病院の村松氏の日本CT技術学会雑誌（2020-8巻）への投稿論文

「超高精細CTのボウタイフィルタの違いにおけるX線線質の評価」

＝全員賛成により承認

④-B EIZOの県HP掲載

EIZOより、モニターを福島県技師会の会員限定価格で販売したいとの申し入れがあった。賛助会員ではないが、TCRT等での協力があり、会員限定価格により会員にはメリットはあると考え県HPへの掲載について提案する。

＝賛成多数により承認（1名反対）

⑤-C HP作成ソフトのバージョンアップについて

今年度の予算編成で承認されたバージョンアップについて、新たにソフトのリリースがあり購入したいと考える。

製品名 BiNDup コンプリートセット

金額 通常価格63960円が割引価格25800円（60%引き）

購入理由：現在所有するバージョンはサポート期間が切れており、不具合等が発生した場合対処できない。

＝賛成多数により承認（1名未回答）

3) 報告他

①日放技関係・理事会の報告 等

②事務所購入についての進展状況

④医療人材対策課より

⑤今年度のレントゲン週間について

⑦その他

2020企画\_BackToTheCampusLife\_20200724

ピンクリボン2020

結核研究奨励賞候補者推薦依頼

弘前大学大学院保健学科研究科「第5回放射線看護セミナー及び2020年度放射線看護ベーシックトレーニング」

第20回 県北MDCTカンファレンス 案内

原子力防災通信訓練結果

＝資料提示あり

⑥Web開催の旅費等の支払いについて（各地区協議会を含む）結果

＝結果 支払わない11票 支払う2票

保留2票

Web会議より

・今年度は、COVID19の影響で中々事業が行えず、会費減額等の意見もあるが、来年度の予算及び日放技との一括納入のため、簡単には行えず、規程の変更は総会の決議が必要である。今後も会員に還元できるような有意義な事業を検討し、進めて行きたい。

・日放技のシステム変更に伴い、会費納入の請求書の有効期限が過ぎてしまっている。再発行の方法など納入方法に関して日放技に確認をする。会費納入は、各地区協議会でも促進して頂きたい。

・学術奨励賞の受賞者は、表彰式を学術大会で行ってはどうか？永年勤続は従来通り総会での表彰とする。ただ、今年度は集会での学術大会が行われない事から方法を次回理事会までに検討する。

以上

# 令和2年度 第4回理事会議事録

日 時：令和2年12月11日（金）  
17時00分～18時30分（Web会議）  
開催方法：会長が電子メールにて事前に議案を提案し、令和2年12月11日17時から18時までのWeb会議で当該議案について協議。12月21日までにWeb入力にて電磁的に採決を行った。  
出席理事：新里昌一（会長）、鈴木雅博（副会長）、阿部郁明（副会長）、大和田重義（副会長）  
池田正光、佐藤佳晴、松井大樹、鍵谷勝、菅野修一、濱端孝彦、花井辰夫、目黒昭夫  
【電磁的参加】 森谷辰裕、佐藤龍一、菅野和之、堀江常満  
出席監事：齋藤康雄  
指名参加：遊佐 烈（事務局長）  
欠席監事：高橋宏和  
議事記録：県北地区

## 1) 令和2年度事業計画について

### ①各委員会等の事業計画

#### ○財務委員会

- ・ R2年度会員状況、会費納入状況  
会費未納者に対して納入していただくよう、各協議会でお声をかけていただきたい。

#### ○学術委員会（鈴木理事）

- ・ 前回理事会で協議事項にあげたWEB配信設備用機器の購入に関して、11月14日に学術委員会を開催し配信設備用機器のデモを行い、その後、最終仕様を確定して現在購入の手続きを進めている。納期が2週間から1カ月となっており、1月中旬には納品される予定である。
- ・ 前回理事会で協議事項にあげた各地区協議会への非接触型体温計購入に関しては、すでに購入済である。
- ・ 「学術大会」については、WEB開催、オンデマンド配信（YouTube Live）としたい。オンデマンド配信（YouTube Live）行うに

は、YouTubeのチャンネル開設が必要で、YouTubeのチャンネル開設には、g-mailが必要である。YouTubeの期間は2週間を目安としたい。

「YouTubeのチャンネル開設」「g-mail取得」に関してネットワーク委員と協議・連携して進めていきたい。

- ・ 開催期間（配信期間）は、「第36回日本診療放射線技師学術大会」が終わった後の、令和3年2月中の2週間を予定している。会員向け講演に関して、URLを会員にのみアナウンスし「会員限定」とする。
- ・ 講演内容に関して、一般公開講演配信は、「新学部の広報」としたい。会員向け講演配信は、「タスク・シフト」の講演で検討したい。具体的内容については委員会の方で決めていきたい。
- ・ 来年の県学術大会はTCRT2021を優先し、「一般演題は募集せず本年同様に講演のみ」としたい。

#### ○災害対策委員会（菅野理事）

- ・ 田村市内部被ばく測定事業（受託事業者：原子力安全研究協会）について、田村市都路町住民を対象にホールボディカウンタによる内部被ばく測定を実施した。結果説明の担当者を福島県診療放射線技師会へ依頼したい旨の連絡があり、放射線管理士1名（公立岩瀬病院の真船浩一氏）を派遣した。実施日：令和2年10月31日（土曜日）10時～16時、実施場所：田村市都路町 地見城多目的集会施設（集会所）
- ・ 福島県原子力防災訓練について、図上訓練が11月25日（水）、住民避難訓練が11月28日（土）に県庁と川俣町、桑折町で実施された。今回は新型コロナウイルス感染症の影響を考慮し、規模を縮小しての実施となり、福島県診療放射線技師会への参加要請はなかった。
- ・ 令和2年度多数傷病者対応訓練について、10月30日（金）10時より、富岡町において

実施された。見学のみのため不参加とした。

- ・みちのくALERT2020実動訓練・図上訓練について、実動訓練が11月12日（木）、東通オフサイトセンター（青森県東通村）において実施された。図上訓練が12月16日（水）、仙台駐屯地並びに東通オフサイトセンターにおいて実施される。新型コロナウイルス感染症の影響を考慮し、県外への移動を自粛したいため両方とも不参加とした。

#### ○編集広報委員（鍵谷理事）

- ・今年度も「会報」の作成を行う。皆様のご協力をお願いしたい。

#### ○精度管理委員会（大和田理事）

- ・現在、Piranha Premiumは県南地区、Piranha 657は県北地区を巡回中である。
- ・令和2年度になってからの定期巡回以外のホームページからの貸し出し依頼は、電離箱が4件、Piranhaが6件となっている。
- ・前回理事会で承認を受けたPiranha657のMAS-2非接続式mA/mAsプローブ拡充に関し、物品が納品となり、測定及びmAグラフ表示の正常動作を県北地区委員により確認。現在、一般撮影系の測定マニュアル整備、準備中である。
- ・前回理事会で承認を受けた電離箱購入に関しては、まだ納品されておらず、納期は約2か月とのことで、まもなく納品されると思う。

#### ○ネットワーク委員会（菅野理事）

- ・HP更新作業は順調に行われている。

## 2) 協議事項

### ①学術奨励賞・論文賞について

- 大原総合病院の村松氏の技師会誌（2020-08号）への投稿論文  
「胸部CTにおける被ばく低減機構（Organ Effective Modulation）の出力線量と画質の評価」
- 大原総合病院の村松氏の日本CT技術学会雑誌（2020-8巻）への投稿論文  
「超高精細CTのボウタイフィルタの違いにおけるX線線質の評価」
- ・上記、2論文は前回の第3回理事会で表彰が承認されているが、さらに今回、学術委員会

にて審議の結果、下記2論文に対しても「学術奨励賞・論文賞」として異議がなく、理事会にて承認をお願いする。

- 大原総合病院の村松氏の日本放射線技術学会雑誌（2020-10月）への投稿論文  
「呼吸動態CTにおけるスペクトル解析を用いた呼吸周期の算出法」

- 大原総合病院の村松氏の日本放射線技術学会雑誌（2020-11月）への投稿論文  
「Deep learning reconstructionを用いた超高精細CTにおける肺気腫定量解析 逐次近似応用再構成法との比較」

※4論文すべてが大原総合病院の村松氏によるものである。

技師会内規に「全国誌に掲載された論文に対して」とあるため、1論文に対して1つの賞（全ての論文を表彰）を与える事の承認をお願いしたい。

＝全員一致で承認

- ・学術奨励賞の表彰に関して、今年度、県学術大会が無いため、今年度に関しては「来年度の総会の授与」とする。

＝全員一致で承認

### ②福島県立医科大学県民健康管理センター国際シンポジウム後援依頼について

- ・令和3年2月に福島市で開催される、2021年福島県立医科大学県民健康管理センター国際シンポジウムに関して「後援」の依頼が来ており承認をお願いしたい。

＝全員一致で承認

### ③来年度予算で人件費追加（事務員）について

- ・中間監査で外部監事より、事務員がいない事を指摘された。また、事務局や会計に大きな負担となっていたため事務員は必要と考える。年間の予算や、全体的な経費割合などの「管理費」を考慮し、具体的（月どのぐらいの日数で雇用するのか、時給はどうするかなどの雇用条件等）に進めていきたい。東北他県の状況（青森県の規程）も参考にしながら規程も考えていきたい。来年度予算での人件費追加の承認をお願いしたい。

＝全員一致で承認

### ④その他

- ・「学術大会」については、WEB開催、オンデマンド配信（YouTube Live）での開催をお願いしたい。

＝全員一致で承認

- ・来年の県学術大会はTCRT2021を優先するため「一般演題は募集せず本年同様に講演のみ」としたい。

＝全員一致で承認

### 3) その他

- ・JARTの福島県からの3名の代議員は、前回同様に、新里会長・阿部副会長・鈴木副会長と、補欠代議員1名は笹川事務局員が継続していただける事に内諾は取った。

このことについて承認をお願いしたい。

＝全員一致で承認

- ・理事会で承認されれば「その他の会員で、立候補する方が居れば連絡をして下さい」との文章を県HPへ掲載をする。→「その他の会員で、立候補する方がいた場合」は「選挙」となり、それにより決定される。

- ・来年度の「県総会」について

今年度は県南担当で、太田西ノ内病院で最小の5名で行った。来年度は県北担当で行うが、この状況ではまた紙面上の開催になりそうである。

役員選挙も含めて、理事会（Web開催）で相談させていただきたい。今年度のJART総会は役員改選もあったため参考にしたい。「選挙管理委員会」を今月中にWeb開催したい。

### 4) 報告他

#### ①日放技関係・理事会の報告等

- ・タスク・シフト／シェアについて、不明の部分も多い。国会通過すれば動き出す予定のようである。統一講習会と違う点は「義務化である」という事である。2025年4月には授業で講習を受けた学生が出てくるため、「その前までには講習を受けなさい」という事のようなものである。JART学術大会（宮城）で、タスク・シフトについての講演があるため積極的に聞いて欲しい。

#### ②東北会長会議

- ・東北地域会長・教育委員合同会議が11/26

（木）19時よりWeb開催された。本来はTCRT前日の開催であったが、TCRT2020が中止のためにWeb開催となった。TCRT2020中止の経緯やTCRT2021について報告を行った。早急にTCRT2020の会計監査を行う予定である。

- ・船水地域理事からWebのWGを作りたい意向があり、各県から1名を選出して欲しいとの依頼があった。次回の理事会で相談するつもりであったが2週間以内との期限があったため、県内での情報系の研究会MICSに打診をしたところ、白河厚生の石森光一さんが手を挙げて下さった。技師会の県HP作成も担当しているため、適任と考え推薦した。

事後承諾となるが、宜しくをお願いしたい。

＝全員一致で承認

- ・TCRT2020の会計監査の方法で、JARTと現在調整中である。技術学会は振り込んでいただいたが、JARTは「会計監査後に支払う」との事で、仮会計監査を行い、再度会計監査を行わなければならない。技術学会側からは不満が出ており現在、調整しているところである。そのため、TCRT2021もキックオフも含めて遅れている。

#### ③第11回東北放射線医療技術学術大会（TCRT2021）について

- ・TCRT2021は、ハイブリッド開催で福島医大新学部をお借りして開催を予定している。TCRT2020では多くの企画委員・実行委員を選出させていただいたが、TCRT2021では実行委員は新たに少人数で、新学部教授の皆さんを含めて検討を行いたいと考えている。

#### ④事務所購入についての進展状況

- ・新事務所は、リフォーム工事に加え、漏水修繕工事も終了した。またハウスクリーニングも終了しているが、備品等はこれからとなる。来年の「会報」に載せ、会員の皆さんに紹介する予定である。

#### ⑤Web開催の有料版の運用について

- ・運用について執行部で話し合い、コセキにWebex導入に関与してもらった。本日の理事会から有料版を使用した。当分の間の使用に関しては「事前登録制」とし、理事

会メーリングリストを通じての予約制とする。今後は、理事会メールやHPカレンダー等で「Webexの使用管理」を行いながら重ならないようにし、勉強会等にも使っていただけるようにしたい。各研究会に役員が所属していない場合は、それぞれの地区の理事に依頼することとしたい。

#### ⑥ピンクリボン 2020 in 郡山

・福島県診療放射線技師会として「後援」をした。10月25日（日）星総合病院で行われ、主催者側からお礼のメールがあった。

⑦次回開催は3月初旬を今回同様のweb形式で予定。

以上

## 令和2年度 第5回理事会議事録

日 時：令和3年3月12日（金）

17時00分～18時30分（Web会議）

開催方法：ハイブリッド開催（電磁的開催及びWeb会議補助的併用）

出席理事：新里昌一（会長）、鈴木雅博（副会長）、阿部郁明（副会長）、大和田重義（副会長）

池田正光、佐藤佳晴、松井大樹、堀江常満、鍵谷 勝、濱端孝彦、花井辰夫、目黒昭夫、佐藤龍一、森谷辰裕

【電磁的参加】菅野和之、菅野修一

出席監事：齋藤康雄

指名参加：遊佐 烈（事務局長）

欠席監事：高橋宏和

議事記録：県南地区

会長挨拶

予算作成中のため電磁的に承認をお願いします。

議 事

### 1) 令和2年度事業計画について

#### ①各委員会等の事業進捗状況

##### ○学術委員会

- ・学術大会の件、メーリングリストにて議論されているが、その他の報告なし。
- ・来年度から、各勉強会等に学術委員会として協力をしていく。

##### ○災害対策委員会

- ・特になし

##### ○ネットワーク委員会

- ・菅野氏負傷のため石森氏が代行にて、案内等も遅滞なく反映されている。

##### ○精度管理委員会

- ・メーリングリスト上で協議。追加は無し。

##### ○生涯教育委員会

- ・フレッシューズセミナー開催。
- ・会員カードの運用について協議必要。

##### ○広報編集委員会

- ・放技ニュース、会報について計画通り。

##### ○調査委員会

- ・第10回東北学術大会に調査結果発表ができなかったため、まとめた結果を県のホームページへ掲載予定。

##### ○表彰委員会

- ・片倉氏へ日放技からの功労賞受賞の報告があった。

##### ○財務

- ・未納者が多数おり、各地区協議会に納入のお願いを求めた。

#### ②研修会・講習会開催案内

- ・Webにて確認

#### ③その他

- ・なし

### 2) 協議事項

#### ①来年度事業計画及び予算案

- ・予算案作成中
- ・技師の事業

新学部の久保先生を来年度からオブザーバーとして参加いただくことを会長から依頼  
新学部（学校）と技師会の情報共有をしていきたい

管理士部会より機器管理士部会を福島県で開催したいと打診があった。

→立ち上げ検討している

- ・第10回の学術大会は来年度に第11回として開催予定
- ・ハイブリッド開催のため、実行委員を当初の定数より減らす予定
- ・人員不足が発生した場合、新学部の学生に協力要請する

## ②定時総会及び各地区協議会全大会について

- ・10回の記念誌発行の準備。協力を求める。
- ・研修センターの使用を提案していく。
- ・先日の地震により新事務所で壁紙にひび割れがあった。
- ・事務員採用のための定款を変更し、総会に掛けたい。
- ・事務機器を充実させる。
- ・安定的活動の維持を図るため事務員の業務を少しずつ拡大し、現在会員が担っている事務業務を軽減したい。

上記、新事務所関係の予算案を作成するので承認願いたい。

- ・定時総会や協議会全大会は書面でのWeb開催となると思うが、最少人数（5～6名）で集計し、総会の成立としてほしい。
- ・来年度の総会は、役員選挙がある。
- ・Webにて開催し、決定していくことが最良と考える。
- ・協議会委員の選出については、協議会より推薦をし、理事会で任命後に総会で承認される。

## ③県内カードのポイントについて

鈴木会長の時代に作成された。

若い技師に勉強会等に参加してもらうのが目的。ポイント制にして高得点者を表彰した。

ポイント表彰は、現在廃止されている。

ポイントの是非については、全国の勉強会など、現在Webで開催されており、会の参加把握が難しいことから、カードを使用することのメリットが少ない。

→来年度引き続き協議

県の勉強会等の参加はJARTに反映されるか。→来年度引き続き協議・調査

参加の確認について、会費を取っていれば参加者把握はできるが、システムの費用がかさむため現実的ではない。

県のみ会員のカードについては、全国、県のみの方にかかわらず登録・配布している。

以前まとめて購入したカードから現在も使用している。

会計担当はカードの番号で管理している。

県内カードの取扱いについては今後どうするのか課題である。

## ④その他

なし

## 3) 報告等

### ①日放技関係・理事会の報告等

前回の県理事会から2回開催されている。

情報を共有ファイルに挙げているので参照願いたい。

3月14日にWeb臨時総会が開催される。

→日放技本部事務所が移転して賃貸料が下げられたこと、活動がWeb主体に置き換わったこと等からコストが下がった。定款を変更することにより会員に還元（1000円）する議案が出され、会長をはじめとする役員が承認の投票をした。

Web臨時総会に結果が公表される。

### ※⑥JART臨時総会と同様

上田会長とのオンライン交流会時に新型コロナ陽性者の会員の会費免除の検討を心願。

上田会長は、様々なオファーに答えていただけ。技師会の雰囲気良くなった。

日放技は哇元氏のこともあり自民党応援の依頼がいまだに来る。（福島県自民党からも）

### ※⑤上田会長とのオンライン交流会と同様

### ②全国会長会議

タスクシフト／シェアの実現について、上田会長と相談した。

日放技との共同事業としてほしいことを依頼した。

3月の国会にて決定される予定である。

### ③第11回東北放射線医療技術学術大会

(TCRT2021) について

日放技、技術学会それぞれから150万円拠出される。Web録画サーバーを技術学会から100万円で借り受ける予定

→繰り返し、好きな時間に閲覧可能。宮城県開催時に好評であった。

第10回東北放射線医療技術学術大会の会計監査が終了し、第11回はこれから進める予定。

→昨今の状況から進みが鈍い。少し遅れ気味である。

学術学会は、仮想空間を利用した仕組みを考えている。

新学部の会場に設置してあるPCまたは各自のPCからも参加可能。

#### ④第3回原子力防災通信訓練

・今までの訓練は、メールとファックスであった。

・今回の震災においては、訓練通りの連絡があった。訓練の重要性を強く感じた。

#### ⑦その他

○東北放射線医療技術学術大会は、福島県技師会費からそれぞれ300円拠出している。

福島県は会員数が宮城県に次いで多いの

で、金額が集まっているが、会運営によっては費用の負担を他県にもBack Upしてもらえよう依頼している。

○事務局より、3年間会費未納者に弁明の機会付与通知書を送り、4月中旬の期限までに返答がなければ除名対象者として理事会の承認を得て総会に上げる予定。

○鈴木副会長より。総会20年表彰について。今年度の対象者には渡されていないのではないか？

目黒理事より。20年表彰該当者がいるが受け取っていない。

会長より。2020年は18名ほどいます。遅れてしまい申し訳ない。来年度と併せて行うことも検討しなければならない。

以上

# 新事務所のご紹介

福島県診療放射線技師会 会長 新里 昌一

令和2年12月、広報編集委員長の鍵谷理事より、会報に新事務所の紹介を載せて欲しいと依頼がありました。会員の皆さんに経緯や今後の構想も含めて、ご理解していただく良い機会だと考え文章を作成してみました。

事務所購入は、県技師会としての以前からの目標でしたが何とか実現できて良かったと思います。会長職に取っては、日頃から頭の隅に残る大きな課題でした。長年、事務所の購入ため、毎年積み立てを行っていました。しかし、積み立て終了期限が迫り、会計事務所からは購入しないと内部留保になるとの指摘・指導がされていました。

今までは、技師会事務所として元会長や事務局長のご自宅をお借りしていました。また、東北各県（新潟も）では事務所を購入しています。数年前から、事務所購入のためWGを立ち上げて検討を行いました。また、事務所所在地を福島市か郡山市に置くかは理事会で採決し、郡山市がやや多くの賛成を集めました。

齋藤監事の知り合いの方にも、事務所物件を探していただきました。当初、同じ郡山市大槻町に良い物件がありましたが、理事会で購入の議論が煮詰まる前に購入されてしまった苦い経験もありました。中古一軒家の物件は多くありますが、事務所の物件は少なく、探すのに苦労しました。富久山の方に元美容室の物件がありましたが、阿武隈川から近く水害の心配がありました。

令和元年に鈴木副会長が、今回の事務所となる物件も探してくれましたが、当時は高価で購入を断念しました。令和2年になり価格を下げた事を知り候補の1つにしました。郡山にはもう1件候補がありました。郡山東高校前の前メロンパン屋の平屋物件です。事務所としてスペース的には、ワンフロアで問題はありませんでした。ただ、駐車場が4台分と市内で価格が高く値下げ交渉が出来ないので諦めました。

既に事務所購入運用している東北各県の会長には、前から購入等について色々と相談して貴重な

助言をいただきました。青森県では、実際に事務所を拝見させていただく事も出来ました。この場をお借りしてお礼申し上げます。



令和2年の第2回理事会で事務所購入について再度協議して購入が認められました。その後、8月末に積水ハウスと購入契約を行いました。以前は、薬剤関係の会社事務所兼住居として使用していたようです。市内中心からはやや遠いですが、郡山中央スマートICからは近く、県内からのアクセスは良いです。駐車場も詰めれば10台程度は置けます。

1階の2部屋を事務所と重要保管物等の管理に使いたいと思いません。2階は



住居スペースで3部屋と台所・風呂もあり、窓は2重サッシになっています。リフォーム工事の際に、間仕切りの古い戸を取り除き、大きな2部屋にしました。照明には調光器も取り付けました。

当初は、事務所購入が目的でしたので、1階部分だけで事務所としては事足ります。そこで秋田県や岩手県を参考に、2階を研修センターとしました。ただ、年度予算では事務所のみなので、2階は徐々に物品を揃えて充実させて行くようになります。また水道・電気等の諸経費もかかります。来年度以降の予算に計上して行くつもりです。

11月の中間監査では、公認会計士から新事務所取得には好意的な意見をいただきました。ただこの規模の団体で事務員が居ないのは不自然であ

り、パートでも良いので事務員配置を検討するようにとの指導がありました。確かに事務局・会計の担当者の業務は多く増えています。一部の方に多大な負担を強いている現状は変えて行かなくてはなりません。東北各県でもほぼ半数以上は、事務員を置いています。この問題も解決するように進めていきます。

新事務所の外観・内観や東北各県事務所も写真で紹介します。また、鈴木副会長が作成した郡山中央スマートICからの案内図も載せます。

運用については、今後も皆さんの意見も聞きつつ進めていきたいと思えます。ハウスクリーニングも済みましたので、備品が揃えば各研究会や地区協議会での会合等にも利用していただければと思います。最終的には事務員を配置して、会員が気軽に立ち寄れる場所にしたいと考えています。

### 事務所兼研修センターまでの道案内

(郡山市大槻町原ノ町 3-1)

郡山中央ICからの経路



右折して県道55号に入る



斜め左方向に曲がる



2階からの風景



玄関と表札・内玄関



1階 事務所スペース



1階 奥スペース



2階 台所(上)、2部屋(下)

## 令和2年度 会務報告

月 日	活 動 内 容 等	開 催 場 所
R 2年 3月24日	県北MR勉強会	福島県立医科大学病院MRI室
4月24日	会計監査・書類上での監査	
4月25日	JART2020年度 第1回理事会	本会事務所講義室（世界貿易センタービル） Web会議併催
5月8日	2020年度 県北地区協議会全体会	福島県立医科大学附属病院 放射線部カンファランス室
5月13日	浜通り地区協議会全大会	Web開催
5月21日	TCRT企画プログラム委員会（Webexテスト使用）	Web開催
5月23日	会津地区協議会全大会	ホテルニューパレス3階 山桜
5月26日	TCRT企画プログラム委員会（Webex使用）	Web開催
5月30日	県技師会総会 紙面表決書 兼 委任状	太田西ノ内病院5号館会議室 大
6月4日	第1回理事会（電磁的）	電磁的
6月4日	精度管理委員会	電磁的
6月4日	災害対策委員会	電磁的
6月4日	学術委員会	電磁的
6月4日	調査委員会	電磁的
6月4日	生涯教育委員会	電磁的
6月4日	総務企画委員会	電磁的
6月4日	ネットワーク委員会	電磁的
6月4日	広報編集委員会	電磁的
6月6日	JART総会 紙面上採決（改選）Web中継	Web開催
6月19日	第10回東北放射線医療技術学術役員会Web開催	Web開催
6月24日	POSS電子申告 会議	Web開催
6月24日	県南地区協議会 一部Web会議	Web開催
6月30日	POSS 電子申告	
7月4日	2020年度 第4回JART理事会	Web開催
7月10日	事務所物件の視察	郡山市
7月17日	第2回理事会（ハイブリッド開催）	Web開催
8月5日	第2回執行委員会	福島県立医科大学病院
8月11日	POSS 電子申告の修正提出	
8月26日	令和2年度 第1回 会津地区協議会委員会	竹田総合病院 総合医療センター1階 竹田ホール
8月27日	事務所購入契約・リフォーム打ち合わせ	積水ハウス及び事務所物件
9月1日	リフォーム及び看板業者と打ち合わせ	新事務所
9月18日	第3回理事会	電磁的承認 Web開催
9月18日	精度管理委員会	

9月18日	災害対策委員会	
9月18日	調査委員会	
9月18日	生涯教育委員会	
9月18日	総務企画委員会	
9月18日	ネットワーク委員会	
9月18日	広報編集委員会	
9月29日	ハウスクリーニング業者と打合せ	新事務所
10月13日	第2回福島県原子力防災通信訓練	
10月31日	第44回福島県放射線治療技術研究会	福島医大 放射線治療計画室 よりWeb
10月31日	WBCによる内部被ばく測定・結果説明会	田村市都路町 地見城多目的 集会施設
11月10日	第2回執行部会	福島医大附属病院
11月12日	TCRT2021 会場について相談	Web 開催
11月12日	令和2年度 第1回県北地区協議会委員会（リモート開催）	ZOOMによるリモート開催
11月13日	東北会長及び教育担当者会議・大会運営委員会	
11月14日	令和2年度 学術委員会	事務所兼研修センター
11月17日	県南地区協議会	Web併用開催
11月18日	中間監査	高橋会計事務所
11月25日	第3回原子力防災通信訓練	
11月26日	東北会長・教育委員合同会議	Web開催
12月7日	JART 事務局と会計監査及び会長講演を相談	
12月11日	令和2年度 第4回理事会	Web開催
12月21日	令和2年度 第2回学術委員会	Web開催
R3年1月8日 ～31日	第36回日本診療放射線技師学術大会	Web開催
2月27日	第6回FANTA	Web開催
3月3日	第102回会津画像研究会	Web開催
3月6日	第11回福島救急撮影カンファレンス	Web開催
3月12日	第5回理事会	Web開催
3月14日	臨時総会	紙面上決裁、Web開催

## 令和2年度 役員名簿

役職名	氏名	地区	委員会	勤務先
会長	新里昌一	県南	総務企画委員長・表彰委員会委員長	太田西ノ内病院
副会長	鈴木雅博	会津	学術委員長・総務企画副委員長	竹田総合病院
副会長	阿部郁明	県北	財務委員長	福島県立医科大学附属病院
副会長	大和田重義	浜通	精度管理委員長	公立相馬総合病院
常任理事	堀江常満	県北	生涯教育委員長	大原総合病院
常任理事	菅野和之	県南	ネットワーク委員長	
理事	池田正光	県北	総務企画委員	福島県立医科大学附属病院
理事	佐藤佳晴	県北	調査委員長	公立藤田総合病院
理事	鍵谷勝	県南	広報編集委員長	総合南東北病院
理事	菅野修一	県南	災害対策委員長	都路診療所
理事	濱端孝彦	県南	生涯教育副委員長	坪井病院
理事	花井辰夫	浜通	編集広報副委員長	南相馬市立総合病院
理事	森谷辰裕	会津	精度管理副委員長	会津中央病院
理事	目黒昭夫	会津	調査委員会副委員長	会津医療センター
理事	松井大樹	県北	学術委員会副委員長	北福島医療センター
理事	佐藤龍一	浜通	編集広報副委員長	いわき市医療センター
監事	齋藤康雄	県北		
監事	高橋宏和	外部		
事務局長	遊佐烈	県北	表彰委員会副委員長	福島県立医科大学附属病院
事務員	本田清子	県北	財務委員	福島県立医科大学附属病院
事務員	笹川克博	県南	災害対策委員	太田西ノ内病院
顧問	伊藤陸郎	県北		
顧問	片倉俊彦	県北		

## 令和2年度 委員会名簿

### ●総務企画委員会

役職名	氏名	地区	勤務先	役職名	氏名	地区	勤務先
委員長	新里昌一	県南	太田西ノ内病院	委員	花井辰夫	浜通	南相馬市立総合病院
副委員長	鈴木雅博	会津	竹田総合病院	委員	遊佐烈	県北	福島県立医科大学附属病院
委員	阿部郁明	県北	福島県立医科大学附属病院	委員	齋藤康雄	県南	
委員	大和田重義	浜通	公立相馬総合病院	委員	本田清子	県北	福島県立医科大学附属病院
委員	池田正光	県北	福島県立医科大学附属病院	委員	笹川克博	県南	太田西ノ内病院
委員	鍵谷勝	県南	総合南東北病院				

●表彰委員会

役職名	氏名	地区	勤務先	役職名	氏名	地区	勤務先
委員長	新里 昌一	県南	太田西ノ内病院	委員	大和田重義	浜通	公立相馬総合病院
副委員長	遊佐 烈	県北	福島県立医科大学附属病院	委員	阿部 郁明	県北	福島県立医科大学附属病院
委員	池田 正光	県北	福島県立医科大学附属病院	委員	斎藤 康雄	県南	
委員	鍵谷 勝	県南	総合南東北病院	委員	伊藤 陸郎	県北	
委員	鈴木 雅博	会津	竹田総合病院	委員	本田 清子	県北	福島県立医科大学附属病院
委員	花井 辰夫	浜通	南相馬市立総合病院	委員	笹川 克博	県南	太田西ノ内病院

●広報編集委員会

役職名	氏名	地区	勤務先	役職名	氏名	地区	勤務先
委員長	鍵谷 勝	県南	総合南東北病院	委員	菅原 正志	浜通	福島労災病院
副委員長	花井 辰夫	浜通	南相馬市立総合病院	委員	風間 顕成	会津	高田厚生病院
副委員長	佐藤 龍一	浜通	いわき市医療センター	委員	菅原 正志	浜通	福島労災病院
委員	阿部 雅浩	県北	福島県保健衛生協会	委員	板橋 聡	会津	有隣病院
委員	安藤 智則	県北	大原総合病院	委員	元木 弘之	県南	太田熱海病院
委員	大井 和広	浜通	小野田病院	委員	国分 美加	県南	総合南東北病院

●調査委員会

役職名	氏名	地区	勤務先	役職名	氏名	地区	勤務先
委員長	佐藤 佳晴	県北	公立藤田総合病院	委員	折笠 秀樹	浜通	いわき市医療センター
副委員長	目黒 昭夫	会津	会津医療センター	委員	遠山 和幸	会津	南会津病院
委員	橋本 浩二	県北	大原総合病院	委員	加藤 裕之	会津	竹田総合病院
委員	佐藤 勝行	県北	福島赤十字病院	委員	照井 英樹	県南	太田熱海病院
委員	布川真理子	浜通	渡辺病院				

●学術委員会

役職名	氏名	地区	勤務先	役職名	氏名	地区	勤務先
委員長	鈴木 雅博	会津	竹田総合病院	委員	新妻 知之	浜通	かしま病院
副委員長	松井 大樹	県北	北福島医療センター	委員	小沼慎一郎	会津	会津中央病院
委員	小池 沙織	県北	北福島医療センター	委員	二瓶 秀明	会津	竹田総合病院
委員	三浦 勉	県北	JCHO二本松病院	委員	村山 滉治	県南	白河厚生総合病院
委員	鈴木 規芳	浜通	呉羽総合病院	委員	鈴木俊一郎	県南	寿泉堂総合病院

●財務委員会

役職名	氏名	地区	勤務先	役職名	氏名	地区	勤務先
委員長	阿部 郁明	県北	福島県立医科大学附属病院	委員	山下 朋広	会津	竹田総合病院
副委員長	宮岡 裕一	県北	福島県立医科大学附属病院	委員	真船 浩一	県南	公立岩瀬病院
委員	久米本祐樹	浜通	南相馬市立総合病院	実務	本田 清子	県北	福島県立医科大学附属病院

●災害対策委員会

役職名	氏名	地区	勤務先	役職名	氏名	地区	勤務先
委員長	菅野 修一	県南	都路診療所	委員	大和田重義	浜通	公立相馬総合病院
副委員長	佐久間守雄	県南	星総合病院	委員	池田 正光	県北	福島県立医科大学附属病院
委員	鍵谷 勝	県南	総合南東北病院	実務	笹川 克博	県南	太田西ノ内病院
委員	鈴木 雅博	会津	竹田総合病院				

●精度管理委員会

役職名	氏名	地区	勤務先	役職名	氏名	地区	勤務先
委員長	大和田重義	浜通	公立相馬総合病院	委員	高橋 豊和	浜通	常磐病院
副委員長	森谷 辰裕	会津	会津中央病院	委員	菊地 孝典	会津	坂下厚生病院
委員	池田 正光	県北	福島県立医科大学附属病院	委員	皆川 貴裕	会津	竹田総合病院
委員	佐藤 勝正	県北	福島県立医科大学附属病院	委員	篠原 宏幸	県南	土屋病院
委員	佐藤 真司	県北	枅記念病院	委員	山内 康彦	県南	須賀川病院
委員	鈴木 敬一	浜通	公立相馬総合病院				

●生涯教育委員会

役職名	氏名	地区	勤務先	役職名	氏名	地区	勤務先
委員長	堀江 常満	県北	大原総合病院	委員	安達 伸也	浜通	いわき市医療センター
副委員長	濱端 孝彦	県南	坪井病院	委員	吉田 賢	会津	会津医療センター
委員	斎藤 聖二	県北	須川診療所	委員	早川 努	会津	竹田総合病院
委員	相澤 浩樹	県北	福島赤十字病院	委員	大原 亮平	県南	太田西ノ内病院

●ネットワーク委員会

役職名	氏名	地区	勤務先	役職名	氏名	地区	勤務先
委員長	菅野 和之	県南		委員	小柴 祐介	会津	竹田総合病院
副委員長	渡辺 進	県北	わたり病院	委員	伊藤 敬	県南	寿泉堂総合病院
委員	荒井 孝嗣	浜通	鹿島厚生病院	実務	石森 光一	県南	白河厚生病院

# 令和2年度 新入会・再入会会員名簿

2020年12月現在

## 【日本診療放射線技師会会員（福島県診療放射線技師会含む）】

氏名	施設名
石川 奏	竹田総合病院

## 【福島県診療放射線技師会】

氏名	施設名
山尾 天翔	福島県立医科大学附属病院 新医療系学部設置準備室

# 公益社団法人 福島県診療放射線技師会 名誉会員名簿（敬称略）

会津地区 中丸俊一  
馬場栄二

県南地区 高橋勝郎  
吉田豊  
富塚光夫  
山村稔  
齋藤康雄

県北地区 伊藤陸郎  
片倉俊彦

浜通地区 持館博志  
佐藤知好  
皆川信

令和3年1月現在

## 令和2年度 会員異動名簿

【異 動】	旧	新
永山 雄三	塙厚生病院	白河厚生総合病院
国分 達郎	星総合病院	たむら市民病院
荒井 孝嗣	白河厚生総合病院	鹿島厚生病院
村岡 喜浩	坂下厚生総合病院	白河厚生総合病院
茂木 俊一	福島県保健衛生協会県南地区センター	福島県保健衛生協会いわき地区センター
半杭 秀文	福島県立医科大学附属病院 手術部	福島県立医科大学附属病院 放射線部
加藤 遼	白河厚生総合病院	坂下厚生総合病院
原田 博	福島県保健衛生協会	福島県保健衛生協会県南地区センター
本多 亮太	大原総合病院	寿泉堂総合病院
高畑 進	白河厚生総合病院	高田厚生病院
吾妻 真一	高田厚生病院	白河厚生総合病院
有松 忍	福島県保健衛生協会会津地区センター	福島県保健衛生協会県南地区センター
菅野由美子	福島県保健衛生協会	福島県保健衛生協会相双地区センター
千葉 雄二	福島県保健衛生協会	福島県保健衛生協会会津地区センター
白岩 武	福島県保健衛生協会県南地区センター	福島県保健衛生協会会津地区センター
佐々木善之	福島県保健衛生協会県南地区センター	福島県保健衛生協会会津地区センター
本田 正治	福島県保健衛生協会	福島県保健衛生協会県南地区センター
石田 篤史	福島県保健衛生協会県南地区センター	福島県保健衛生協会
幡野 勝久	福島県保健衛生協会会津地区センター	福島県保健衛生協会いわき地区センター
佐藤 孝行	常磐病院	磐城中央病院
古川 大輔	杣記念病院	須川診療所
高橋 豊和	常磐病院	磐城中央病院
安斎 洋之	福島第一病院	済生会川俣病院
蔵田 巖	北福島医療センター	保原中央クリニック
松本 峻典	会津西病院	マリアクリニック
宮島 貴裕	磐城中央病院	一般財団法人 桜ヶ丘病院
平山 智也	太田総合病院附属太田熱海病院	太田総合病院附属太田西ノ内病院
秦 昭吉	宮下病院	個人
小林 敏雄	土屋病院	個人
若月 公太	松尾病院	個人
太田 奈緒	公立相馬総合病院	相馬中央病院

**【退 会】**

中田 優子  
佐藤真由美  
山之上 毅  
立見 一男  
中野 史郎  
齋藤 真一  
力丸 敬太  
長川 正良  
小松亜希子  
平山 功  
佐藤 初勇  
鳴原 光郎  
天野 勉  
音高 正明  
高橋 嗣郎  
三浦 悠潔  
秦 昭吉  
齋藤 拓真

**勤務先**

寿泉堂綜合病院  
個人  
いわき市総合保健福祉センター  
個人  
桑野協立病院  
福島県総合療育センター  
済生会福島綜合病院  
個人  
個人  
小名浜生協病院  
郡山市健康振興財団 健康センター  
個人  
小名浜生協病院  
個人  
綜合病院福島赤十字病院  
櫛田病院  
個人  
大原綜合病院

**【転 入】**

松本 峻典

**勤務先**

マリアクリニック

**【転 出】**

菅野 典子

**勤務先**

国立病院機構福島病院

**【再入会】**

なし

**【死 亡】**

高橋 勝郎

**勤務先**

個人

## 新人・新入会員紹介

①氏 名 ②勤 務 先 ③出 身 校 ④卒業年月日 ⑤趣 味 ⑥抱 負

①山尾 天翔

②福島県立医科大学

③国際医療福祉大学

④平成31年3月

⑤電子工作

⑥何事にも誠実に取り組み、  
日々自己研鑽に努めてまいり  
ます。



①石川 奏

②竹田総合病院

③国際医療福祉大学

④令和2年3月

⑤映画鑑賞、スノーボード

⑥診療放射線技師として知識と  
技術の向上を目指し、少しで  
も地域医療に貢献できるよう努力していきたい  
です。



## 賛助会員各社 名簿

会社名 郵便番号 住所	電話番号
エーザイ株式会社 郡山コミュニケーションオフィス 〒963-8014 郡山市虎丸町24-8 富士火災郡山ビル5F	024-932-0704
カイゲンファーマ株式会社 新薬部 仙台営業所 〒984-0003 仙台市若林区六丁の目北町16-1	022-288-6771
コニカミノルタジャパン株式会社 東北支店 郡山営業所 〒963-0207 郡山市鳴神2丁目82番2号	0570-000-437
コセキ株式会社 福島営業所 〒960-8204 福島市岡部字東町71-1	024-534-7188
株式会社三陽 〒960-8114 福島市松浪町8-13	024-534-3155
シーメンスヘルスケア株式会社 〒980-0811 仙台市青葉区一番町1-9-1 仙台トラストタワー18階	024-962-7118
株式会社島津製作所 郡山営業所 〒963-8877 郡山市堂前町6-7 郡山フコク生命ビル2F	024-939-6231
富士フイルム富山化学株式会社 〒983-0869 仙台市宮城野区鉄砲町西1-14 富士フイルム仙台ビル	022-292-2731
株式会社千代田テクノル 福島復興支援本部 〒960-8041 福島市大町7-23 朝日生命大町ビル2階	024-526-0901
キャノンメディカルシステムズ株式会社 福島支店 〒963-8004 郡山市中町1-22 大同生命郡山ビル	024-932-4838
東洋メディック株式会社 仙台支店 〒981-3133 仙台市泉区泉中央3-29-7 ウィング21 3F	022-772-5250
バイエル薬品株式会社 東北営業所 〒963-8001 郡山市大町1-14-1 ジブラルタ生命郡山ビル5階	024-995-3113
日本メジフィジックス株式会社 仙台支店 〒980-1104 仙台市青葉区本町1丁目12-7 三共仙台ビル6F	022-206-7200
富士フイルムヘルスケア株式会社 郡山営業所 〒963-8024 郡山市朝日三丁目2-27 HD朝日ビル1F	024-922-2706
伏見製薬株式会社 仙台連絡所 〒983-0852 仙台市宮城野区榴岡4-5-22 宮城野センタービル4F 403	022-295-5667
富士フイルムメディカル株式会社 福島営業所 〒963-8014 郡山市虎丸町2-11 郡山虎丸第一生命ビル2F	024-995-5801
GEヘルスケア・ジャパン株式会社 福島営業所 〒963-8021 郡山市桜木2丁目2-1	024-922-5233
株式会社フィリップス・ジャパン 東北ブロック 仙台支店 〒981-3213 仙台市泉区南中山1-28-18 輝ビル3F	070-3623-8867
富士製薬工業株式会社 仙台第二営業所 〒983-0036 仙台市宮城野区苦竹二丁目7番20号	022-284-9818
堀井薬品工業株式会社 第一医薬情報部 仙台営業所 〒982-0841 仙台市太白区向山4丁目20-19	022-221-3047
富士フイルム医療ソリューションズ株式会社 〒167-0051 東京都杉並区荻窪4丁目30番16号	03-6383-6272
株式会社アゼモトメディカル 〒101-0042 東京都千代田区神田東松下町17 ファーストビル6階	03-6271-0829
GEヘルスケアファーマ株式会社 〒107-6113 東京都港区赤坂5-2-20 赤坂パークビル13階	090-8023-7089

# 編集後記

桜の花も例年より早く満開となり、暖かな春の訪れを視覚的にも感じられる時期になりました。楽しみにしていた花見も昨年同様、細やかに楽しんでいる次第です。

広報編集委員会の一員として一年が過ぎ、最後の締めとして会報No.57の発行を迎えることとなりました。ご多忙の中、寄稿していただいた皆様には、心より感謝いたします。

2020年度に叙勲を受けられた伊藤陸郎様、佐藤政春様をはじめ様々な表彰を受けられた会員様、大変誇りに思います。

2020年度は、福島県診療放射線技師会として念願でもあった事務所が開設され、福島県の診療放射線技師の拠点ができたことは、喜ばしいことと感じています。

また、新型コロナウイルス感染拡大防止の為に委員会活動や勉強会などが相次いで中止となり、活動が抑制された年でもありました。しかし、その中でもWeb開催やWeb会議といった試みも行われ、新しい時代の始まりが来たという期待感も感じられました。

最後に2021年度は、役員改選も行われ、新しい事務所で、新たな方法で様々な試みが行われると思います。時代の流れに着いていけるように心を引き締めたいものです。

放技ニュースや会報に携わった広報編集委員の皆様のおかげで、新しい一年迎えることが出来たことは、言葉では言い表せないほどの感謝しかありません。

今後も、会員の皆様に多くの情報を届けることが出来るように、広報編集委員と共に広報活動に励みたいと思います。  
(鍵谷 勝)

## 【編集広報委員会】

鍵谷 勝	総合南東北病院	花井 辰夫	南相馬市立総合病院
佐藤 龍一	いわき市医療センター	阿部 雅浩	福島県保健衛生協会
安藤 智則	大原総合病院	大井 和広	小野田病院
菅原 正志	福島労災病院	風間 顕成	高田厚生病院
板橋 聡	有隣病院	元木 弘之	太田熱海病院
國分 美加	総合南東北病院		

## 公益社団法人 福島県診療放射線技師会 会報 No.57

発行日	令和3年3月31日
発行者	新里 昌一
発行所	公益社団法人 福島県診療放射線技師会 〒960-8157 福島市蓬萊町7丁目13-5 TEL 024-536-1242 <a href="http://fart.jp/">http://fart.jp/</a> E-mail:office@fart.jp
印刷所	有限会社 吾妻印刷 〒960-8074 福島市西中央四丁目25 TEL (024)534-0342 FAX (024)536-0158 <a href="http://www.azuma-pg.jp">http://www.azuma-pg.jp</a> E-mail:azuma@azuma-pg.jp

